

The Kansai University Bulletin

Osaka, September 15th, 1922.

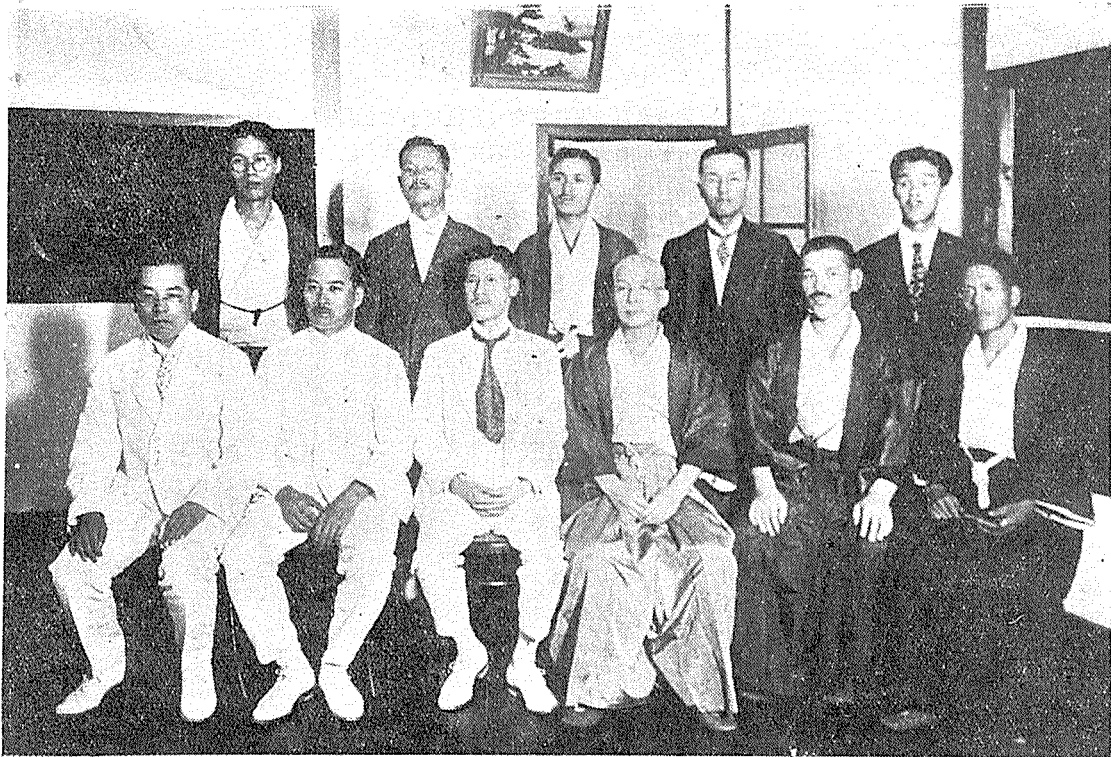
No. 3.

子 里 山 學 報

行發日五十月九

號 三 第

年 一 十 正 大



影 撮 念 記 會 大 部 支 山 岡 會 友 校

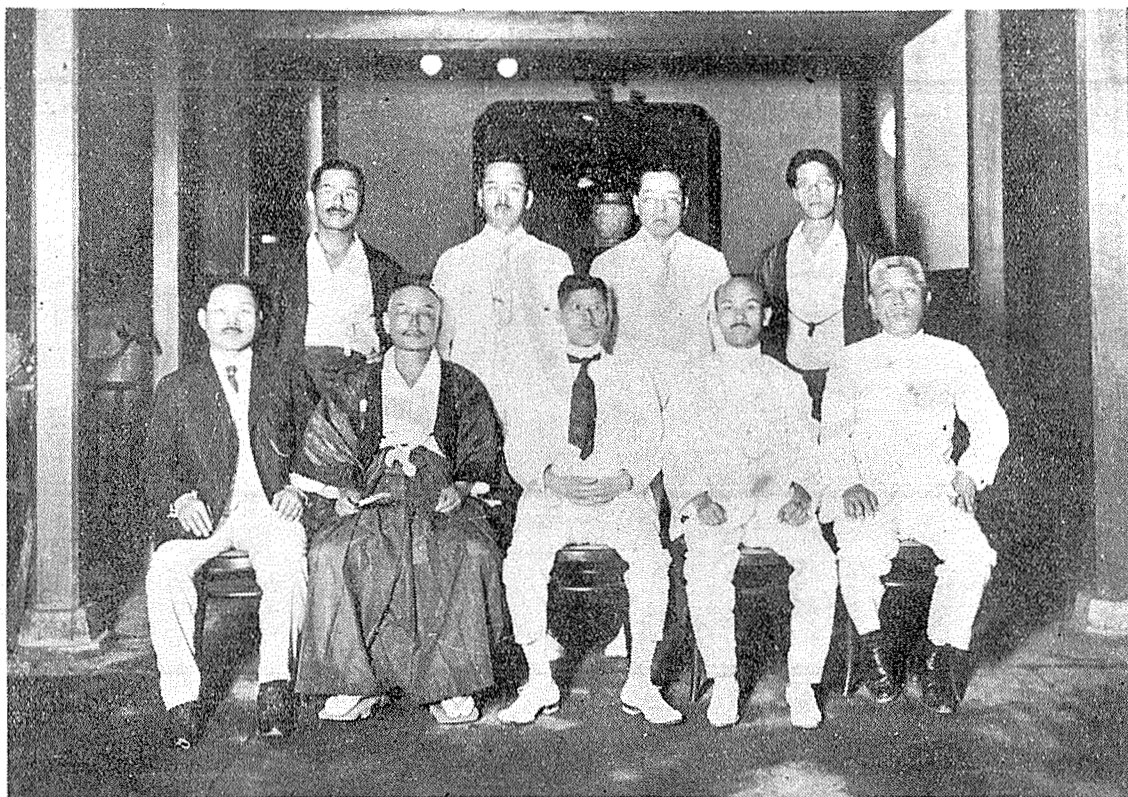
阪 大

番九四〇一 } 堀 佐 土 話 電
番〇七五五 }

局 報 學 學 大 西 關

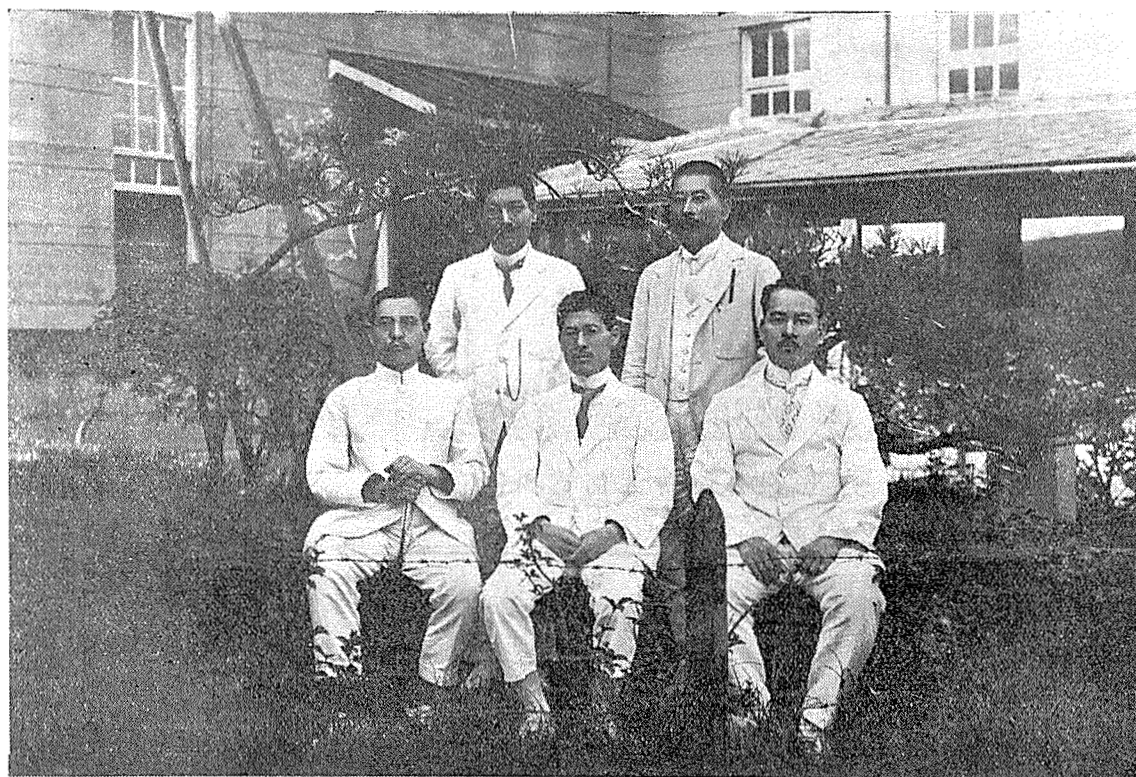
座 口 金 貯 替 振
番 五 七 八 二 一 阪 大

宮島專務理事一行に訪問せし福岡在住校友諸氏



前列右より小川友校、中江友校、宮島專務理事、池田友校、畑友校
後列同 辰巳本編輯主任、田川秘書、野村幹事、金本學生兼講師(參照事記)

學庭に於ける本學幹事諸氏



前列右より野村幹事、宮島專務理事、小泉幹事
後列同 堀學監兼講師、木下幹事

千里山學報 第三號

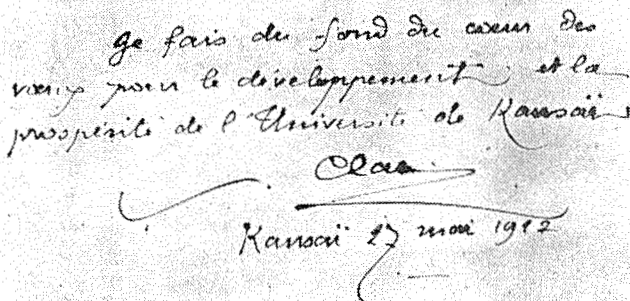
目次

- 挿繪——校友會岡山支部大會(表紙)
- 校庭に於ける本學幹事諸氏——校友會福岡支部大會——佛大使揮毫——旅館に於ける下村評議員——豫科專任教授會——加洲大學クリークシエター——校友後藤武夫氏夫妻——オールツソー教授揮毫
- 校友諸君！
- 評議員 卷頭言
- 法學博士 下村 宏氏談
- 學内報——徵兵令に依る認定——中等學校長招待會
- 新制豫科第一學年第一學期終了式——豫科專任教授懇談會——專門部學生補缺募集——宮島專務理事一行の校友會支部歴訪——運動場新設——第二期授業開始——講師囑託——駐日英大使來學に就て——滋野男爵來學に就て——圖書寄贈——宮島教授の藏書開放
- 學友會報——音樂部新設——懸賞募集の審査——夏期地方文化講演會
- 校友の面影(帝國興信所長後藤武夫氏)
- 校友會報——福岡支部總會——岡山支部大會——鴻鳴會總會——國家試驗及第者——校友動靜——校友改氏名——校友逝去——校友住所錄——本誌維持費受領報
- 告——東京支部狀況
- 關西甲種商業學校彙報
- 人類學圖則の社會學的考察
- 教授 岩崎 卯一
- 雜錄——加藤恒忠氏と語る——鴻鳴會總會の記
- 擴張後援會寄附申込者芳名

校友諸君！

卷頭言

母校の隆盛發展は即ち校友の喜びであり、校友の榮達大成は即ち母校の誇りである。この意味に於て校友と母校との間に、永久に斷つことの出来ない特殊の親密なる關係の存すること、苟くも學校と名のつく限り、その官學なると私學なると、又その中等學校なると、專門學校なると、將た大學なるとによつて異なる所はない、併しながら特に私學の場合に在りては之を官公立の學校に見ることの出来ない獨特の關係がその校友と母校との間に存することを看過がすことが出来ない。



佛國大使記念揮毫

Alma Mater と稱するものこの意味に外ならない。換言すれば、母校と校友とは、之を別離しては決してその存在を考へ得ない一個の渾一體である。更に詳言せんか、校友はその母校を背景としてのみ、初めてその才能手腕を遺憾なく外部に進展することを得べく、母校はその校友の培養護育に俟つことによつてのみ初めてその存在を保持し、その隆盛を期すことが出来る。恰も大木の枝葉根莖がその幹を中心として四方に派生し、幹は又その生存の糧を是等枝葉根莖により送らるゝ養分に俟つと同様である。所詮母校ありての校友でありての母校であつて、兩者は互に永久に一個因果の連鎖である。

即ち私學に於て、その母校を一本の幹に譬ふれば、校友はその根であり、その枝であり、その葉であり又花である。即ち羅典語で古來母校のことを

今や本學は幸にも社會各方面の同情と、幾多校友諸氏の熾烈なる愛校心の具現とによつて、新裝漸く成り益發展

の緒に就かんとしてゐる。然れども本學の現状は、尙未だ決して遺憾なく充實完備せるものとは稱し得ない。新校舎の一部既に竣成したりと雖も、それは豫定の擴張事業の僅かに一部分の達成を見るを得たるに過ぎず、新大學令に依る大學設立の件漸く認可されたりと雖も、之に伴ふ設備に至つては、萬遺憾なきの域に達すべく尙ほ多大の距離の存することは蓋ふべからざる事實である。

即ち大學本館の築造、大運動場の建設、圖書の蒐集、各専門學者の招聘等數へ來れば枚舉に遑なき所であるが、而もその一として急を要せざるものはない。憶うて茲に至れば本學の多事なる蓋し今日より甚しきはないであらう。而して是等擴張充實の成否如何は唯かかつて我三千の校友諸氏の双肩にある。本學か所期の擴張事業を成し遂げ名實共に東洋に冠たる、否な中外に誇るに足るべき大大學を現出し得るか、宏圖空しく中道に挫折して、徒らに萬斛の憾涙を呑むに至るかは、實に歸して諸氏愛校の精神の深淺如何に依ると言ふも強ち過言ではあるまい。希くば諸氏、幸に益自重奮勉以て諸氏の母校たる本學をして、愈その大成さしむべく努力するに吝ならざらんことを。

學理の實際化

本學評議員 法學博士 下村 宏氏談

去る八月八日本學校友會地方支部歴訪の途次安藝嚴島に立ち寄り、偶々同地に於ける大阪朝日新聞社主催夏季大學の講演を了へて靜養中の本學評議員下村宏氏をその客寓立花ホテル別館に訪ひ、私學に關する氏の高見を拜聴した。氏は

『近々の中に學校へ參つて學生諸君の前で親しくお談しする機會があることゝ思ひますが。』

ご前提して左記の如き感想を談された。旅中忽卒の際拜聴した爲め博士の御意見中或は記憶に逸した點が多からうと思ふ。この點特に同氏に對し又讀者諸君に對し深謝する次第である。

特に私學と限つたわけではなく官公立の大學に對しても同様であるが、私は我國の各大學の教育が餘りに實際離れしてはゐないかと思ふ。大學が學理を研究する所であるとは誰もが言ふところであり又その通りではあるが、併しその學理たる、實際社會とは殆ど關係の無い空理空論であつてはならない

ことも亦言ふまでもないことである。

然るに我國の大學に於ては遺憾ながら徒らに理論のみ走つて、實際には何の役にも立たぬやうな教育が往々にして行はれてゐるといふことが幾多の事實に依つて證明されてゐるのである。

例へば私に會て大學在學當時三ヶ年間も商法の講義を聞いたが、その後北米紐育に遊んだ時横文字の小切手を書かうとした所が、薩張り要領が判らなくて大變困つたことがある。所が尙ほ驚いたことには、その行員の談によると私などは未だ好い方であつて、その少し前の如き、日本の大學の或る有名な商法學者が矢張り小切手が書けなくて、その行員から教へを受けたといふことであつた。



旅館に靜中養の村下評議員

成る程今になつて考へて見れば我國の大學教授諸君の中にはそんな人も多い様である。右は單なる一例に過ぎないが總じて日本の大學の講義と言へば前にも陳べた様に實際離れのした理論ばかりが多くて、大抵の場合定義や歴史位で講義が終りがちである。理論的

方面も勿論必要ではあるがその理論をもつと的確に實際に當て兼ねて講義するのでなければ、容易に學生の頭へ這入るものではなく、従つて實際の役に立つものではない。

近頃獨逸では新しいクルツルを建設するための一手段として大學など各部門の専門實際家を招聘して、時事問題例へばシレジアの問題であると

か、馬克の問題であるとか、或は石炭の化學的精製方法と言つた様な實際問題に關する講義を依頼して學生に聽かせてゐるやうである。

又米國などでも常に眼前に現れてゐる活きた事實を以て大學に於ける講義の對象としてゐる。例へば作文一つ作らせるにしても、華府會議の顛末、その影響と言ふやうなことを作題とするといふ風に、事毎に大學講義の實際化を計つてゐるやうである。

然るに我國の大學教育の現状は繰返し言ふやうに餘りにも超現世的のものであると言はざるを得ない。要するにもつと大學教育を實際に適合したものにして欲しいといふのが私を問はず日本の一般の大學に對する私の希望である。

山岡總理事も本誌の第二號に「學の實化」を以て本學の特長とし度いといふ意見を公にして居られるが、かくしてこそ本學は我國諸大學に率先して學問の活用を實現することができらうと思はれる。

(文章在學世)

學 內 報

徵兵令に依る認定

本學大學部並に大學豫科は去る七月十八日附を以て陸軍、文部兩大臣より何れも徵兵令第十三條第一項第二號により中學校の學科課程と同等以上の學校として認定せられ同時に文官任用令第六條により認定せられた。

中等學校長招待會

先般昇格認可の指令に接するや本學はこれを機會としてその披露を兼ね勞々教育上の意見を聽く爲めに京阪神地方の各中等學校長招待會を六月十二日午後五時より今橋ホテルに於て催した。

開會と同時に柿崎專務理事の簡單なる挨拶に次で宮島專務理事が大學の目的及び外國諸大學と我が國大學との比較論より説き起し、本學の現状及び將來の計畫並びに中等學校と大學との連絡等に就て種々説明若くは希望を陳述すれば、之を受けて堀口市岡商業學校長、庄野育英商業學校長等それぞれ本學に對する希望を述べられかくて宴席に移つた。

宴方に酣なる頃來賓一同を代表して、清水大阪商業學校長の謝辭があり、各自快談縱横時の移るを知らぬ有様であつたが、最後に清水校長の發聲で本學の萬歳を三唱して盛會裡に一同歡を盡して散會した。

因に當日態々御貴臨の榮を得た各學校長諸氏は左の通りである。

出席者芳名

(イロハ順)

- | | |
|-----------|-----------|
| 市岡商業學校長 | 堀口米太郎氏 |
| 東區商業學校長 | 神山和雄氏 |
| 北野中學校長 | 梶山延太郎氏 |
| 神戸商業學校長 | 村松彌一郎氏 |
| 四條中學校長代理 | 牧田宗太郎氏 |
| 上宮中學校長 | 定 惠 苗氏 |
| 明星商業學校長代理 | アルペール氏 |
| 今宮中學校長代理 | 木村郁三氏 |
| 高津中學校長 | 三 澤 糾氏 |
| 天王寺商業學校長 | 下河内十二藏氏 |
| 八尾中學校長 | 重藤利一氏 |
| 大阪商業學校長 | 清水大樹氏 |
| 育英商業學校長 | 庄野一英氏 |
| 桃山中學校長代理 | ジョン、ジ、マン氏 |
| 本學側出席者 | |
| 柿崎專務理事 | 宮島專務理事 |
| 垂水理事 | 白川理事 |
| 山口監事 | 大鐘監事 |
| 小泉幹事 | 野村幹事 |
| 木下幹事 | 堀學生監 |

新制大學豫科第一學年 第一學期授業終了式

新制大學豫科第一學年第一學期終了式は去る第一學期末に千里山新校舎に於て舉行せられたが席上宮島專務理事及び小泉教授に依つて大要左の如き訓示並に所感が陳べられた。

宮島專務理事訓示

我が國各大學の暑中休暇は西洋の例に倣つて相當長き期間に亘るを普通せられてゐるが、西洋の大學が非常に長い休暇を與へてゐるのは日本に於て普通に解せられてゐることは稍々異つた理由に依つてである。即ち歐米大學の暑中休暇が長いのは學生に對して長い休養の期間を與へるさいふ意味では決してなくそのプロフェツサースに充分なる研究の時間と機會を與へんが爲に外ならないのである。

尚ほ換言すればそのプロフェツサースが或は圖書館に於て或はラボレトリーに於て或は其他實地に觸れて各自の専門的研究を進めるに充分の時間を與へんさするにあるのである。

右は歐米諸大學が長い休暇の期間を設くる根本の理由であるがこの理由を探つて以て本學ではこれを學生に對する理由ともし度いのである。故に望むらくは學生諸君が暑中休暇は業を止めて徒らに遊ぶためさいふ意味では決してないさいふこを常に心掛けられんことを切望するものである。

小泉教授所感

休暇が遊ぶためのものでないこは只今宮島氏が陳べられた通りである。で學生諸君は此の休暇を遺憾なく利用するこを心掛けられ度い。然らば如何にこれを利用すべきであ

るか、勿論その方法も種々あるであらうが茲には私が日頃考へてゐる二三の點に就て陳べて見度いと思ふ。

西洋の言葉で To know everything about something の同時に To know something about everything が必要であるさいふが誠に至言であると思ふ。然るに日本人は一體に興味が狭少であつて自分の専門外のこは殆ど何も知らないのが普通である。學者といはれるものでさへも自己の研究範圍外のこに就ては殆ど何等の智識も持つてゐない。これでは本當の學問といふものが出来る筈はない。凡そ一の學問は他の總ての學問に直接間接に關係を有するものであるから大體を圓満に理解するこなしには自己の専門を完うするこが出来ない。所が西洋人は之に反して非常に多くの趣味を有し従つて常識も發達してゐる。そこで諸君に希望するのは諸君がこの長い休暇を利用して趣味を廣めるさいふこに努力せられんこである。即ち各自が専門として大學で研究してゐるこを實地に觸れて照合して見るさいふこは勿論尙進んで専門外の範圍に涉つても相當の理解を持つ様に努められ度い。

或はそう何も彼もする暇がないさいふ者があるかも知れないがそれは間違である。私が曾て第四高等學校在學時代に當時の校長北條先生から斯ういふ談を聞いたこがある。誠に簡單ではあるが今尙ほ耳朶を去らない。それは、小閑がないから手紙が書けないこは日本人が異口同音に云ふ所であるがそれは寧ろ事務上の無能を表白した言葉であつて事實は反對に忙しければこそ手紙が書けるのであるこ

いふ様な意味の談であつたが凡てがその通りであるを信する。

即ち時間といふものは忙がしい時程利用が出来らぬもので十五分或は二十分位の時間はぎんなに忙しくも融通のつくものである。

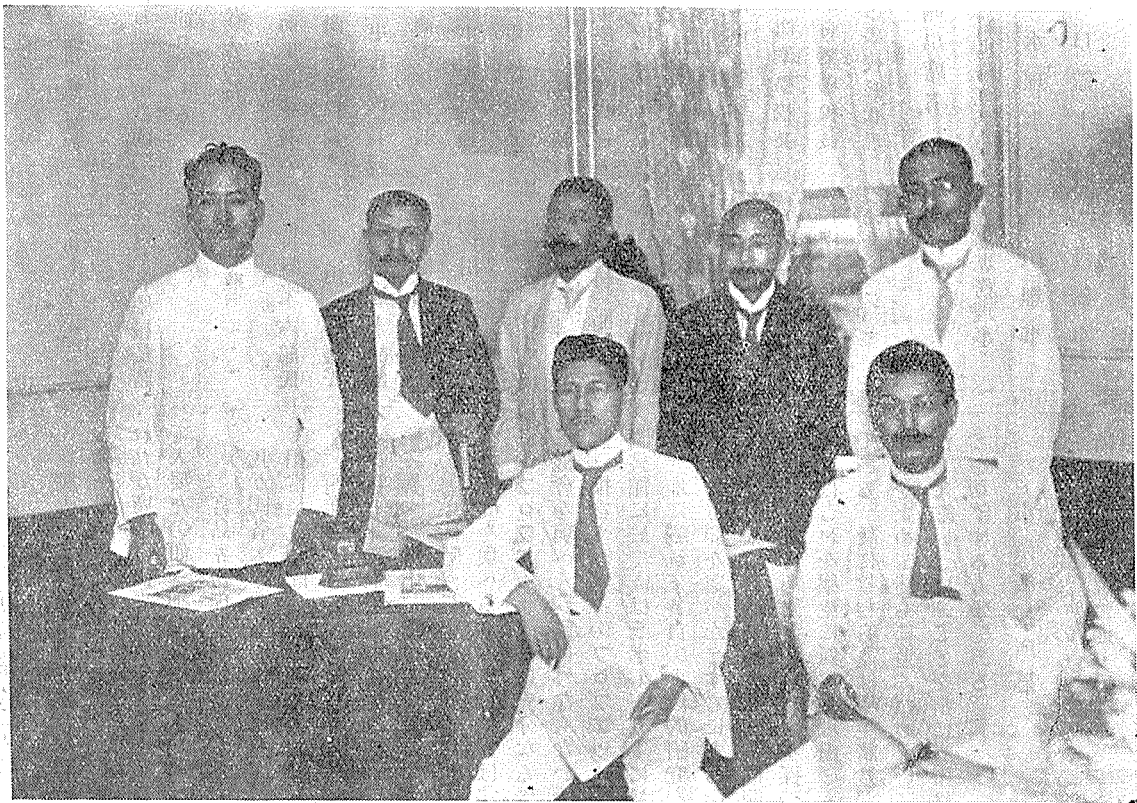
Trifles make perfecting, and perfection is not time. といふ言葉があるが、この十五分或は二十分位の僅少の時間を利用して得た所が、積み積つて立派な大巻の著書となつて現れたといふ様な例は泰西では珍らしいことではないのである。

終りに臨んで衛生に就て一言して置き度い休暇は身體を良くするために利用すべきであることは誰もが言ふ所であるが保健と運動とをいふことは健康を保つ程度でよいのであつて運動のために運動する必要はない。保健の目的は保健ではなくて、諸君に付て言へば保健の目的は即ち研學に堪ゆるといふことであり社會に出て活躍するに足るといふことである。この點を混同せざらんことを希望する。

大學豫科專任教授懇談會

凡そ何れの大學に於ても教授會その他の名稱の下に各教授が相寄つて授業並に訓育に關しそれぞれ腹藏なき意見を開陳し以て大學の使命を完うするの便宜を増すべき機會を有するものであるが本學に於ては未だかくの如き機會のあつたことを聞かず、深くこれを遺憾とせられた宮島專務理事は去る七月二十三日午後五時今橋ホテルに各專任教授を招きて懇談會を催し互に意見の交換をなしたが尙今後毎月一回大學豫科專任教授會を開くこととし

大學豫科專任教授懇談會



師講兼監生學堀、授教村中、授教上村りよてつ向列後 (左)授教兼事務專島宮(右)事幹下木列前
事幹村野、授教兼事幹泉小

第一日曜日をして以て之に當てることに決定した因みに當夜の出席者左の如くである。

- 宮島專務理事 村上教授
- 中村教授 小泉教授
- 堀講師兼學生監 野村幹事
- 木下幹事

專門部學生補缺募集

本學專門部本科及同豫科各一年學生若干名宛補缺募集することに決し八月二十一日より九月二日に至るまでの期間願書を受理し九月四日五日の兩日之が入學試験を施行する筈である。

宮島專務理事一行の 校友會地方支部歴訪

私學に校友友が一個の渾一體を成すものであつて之を相分離してはその存在を考へることが出来ないといふことは本誌巻頭にも陳べて置いた所であり又恐らく何人にも異論のない所であると思ふ。即ち大學に校友との間の連絡が遺憾なく保持されてゐなければ私學の發展といふことは到底望み得ないと言つても過言ではあるまい。この意味に於て右兩者間の連絡を計り以て相互の親密の度を益々深からしめんこの目的の下に、宮島專務理事は野村幹事、田川理事室秘書並に辰巳本誌編輯主任の三氏と同伴、中國、九州地方に於ける校友會各地支部を歴訪することに決し、八月五日午後三時築港解纜の紫丸に乗船、服部講師以下大學關係者數氏の見送りを受けて大阪を出發し、翌六日正午頃別府着それより大分、福岡、廣島、岡山等に於ける各校友若しくは校友會支部を訪問し十日早朝歸阪した。

運動場新設

既に豫科全館の竣成を見たる本學千里山校舍に於ては更に大學本館、附屬中學校舎、大講堂、圖書館、大運動場等の建設工事を急ぎつゝある。こゝは本誌の既に報道した所であるが、今回更にテニスコート二個及び角力士俵一個の新設竣成を見るに至れり。

尙ほ本學は、近く範を歐米各大學に採り一大グリーク、シエターを建設せんを企畫しつゝあり。即ち附近の大窪地を利用して圖の如き圓場を築造して露天の大演說會場若くは大演奏會場をなし得るのみならず、内部の長椅子を取り除く時は廣大なる半圓形の運動場を成り其所に於て爲さるゝ各種の演技を周邊のスタンドから見物し得る設備であつて、これが完成の時は我國否な東洋唯一を稱し得るわけである。

第二學期授業開始

本學各科各學年の第二學期授業は例年の通り九月十一日より之を開始す。

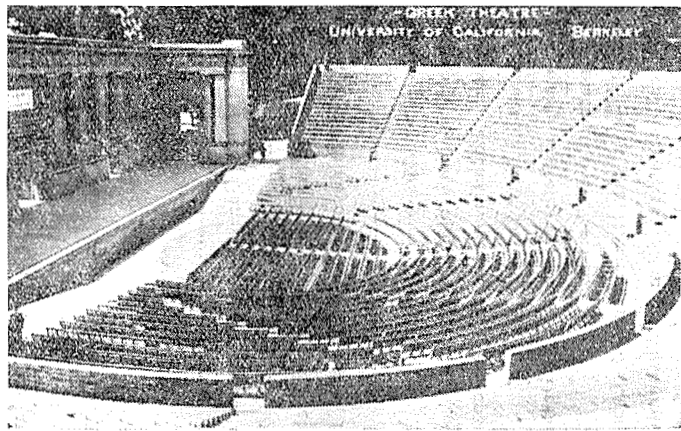
講師囑託

左記の諸氏を講師に囑託す。

獨逸語	文學士	高木敏雄氏
獨逸語	金生喜造氏	
英語	法學士	樋口純氏
簿記學	商學士	篠原泰助氏
地理	文學士	横地得三氏
商業史	商學士	田邊信太郎氏

駐日英大使エリオット博士來學に就て

通り一遍の外交官同士の外交に依つて國際間の親善が期し得られるを信じられてゐた時代は既に去つて、今や國民外交の時代であるといふことは、こゝ新らしく説く筈でない。



(一タメン、クーリグの學大アニルオフリカ國米)

である。この意味に於て曩に駐日佛國大使を迎へた本學は更に駐日英國大使に對し特に來學を依頼したるに、幸に快諾を得て近く來學せらるゝ筈である。因にこれに就き同大使を本學宮專島務理事との間に取り交はされたる往復文は左の如くである。

宮島專務理事より

Osaka, July 15th, 1922.

Sir,

On the behalf of the members of the Administrative Committee and professional Board of the Kansai University, I offer you the highest respects, and shall be greatly grateful to you if you will be kind enough, when you will be in Kyoto next autumn, to honour us with a visit and make an address for our students, who are keenly interested in the cultures and institutions of your country and especially familiar with the English language.

Our institution was founded in 1886 and has been recognized as a University by the Government under the new University Regulations. We have three faculties: Faculty of Law, Faculty of Science and Faculty of Commerce, and the students number 2,500.

We trust that your visit will have the effect of still further strengthening the bonds of friendship which so happily obtain between our two peoples, and it is with the greatest gratification that in the next scholastic term we receive you here as a representative of the great nation for whom we have sincere feelings of admiration.

Apologizing for troubling you and thanking you in advance for yours special favours,

I am, Sir,

Yours most respectfully,

T. Miyajima

The British Ambassador, Administrator.

Tokyo.

英國大使より

British Embassy.

Tokyo.

July 17, 1922.

Dear Sir,

I shall be happy to visit your University some time when I am in Osaka and have leisure, but though I am much flattered by your invitation to give an address I regret that I cannot offer any hope of my being able to do so.

Thanking you for your kind letter,

To I remain,

Yours faithfully,

C. ELLIOT.

滋野男爵來學に就て

學生をして凡ゆる方面に興味を有せしめ以て全面的人物の養成に力を注ぎつゝある本學當路者は、常に各種の名士を招聘しその講演を依頼して學生を廣く科外に啓發せんとし又現にいつゝあるが、今回特にかの歐洲大戰に際し親しく佛國の飛行機隊に加はつて實戦に参加せられた航空界の世界的權威、男爵滋野清武氏に對し來學の一場の講演を依頼した所、幸ひ快諾せられ來る二十六日來學の上航空に關する講演をせらるゝ筈である。

圖書奇贈

今回左記各位より何れも頭書の如く各種の圖書を本學に寄贈せられた。茲に掲げてその御芳志を深謝する次第である。

- 一、内田文庫(經濟、商業に關する英、佛、邦書數百部)

評議員 内田信也氏
一、法律に關する佛書百數十部

評議員 水上長次郎氏

一、經濟及一般科學に關する英、佛、邦書數十部

井上一男氏

一、交通及一般科學に關する英書數十部
評議員 加福力太郎氏

一、經濟、法律其他に關する英、邦書百數十部

平賀憲夫氏

一、經濟及一般科學に關する英、邦書數十部

中西次郎氏

一、經濟、商業に關する佛書十部

渡邊五郎氏

一、保險に關する英書一部

岸田幸雄氏

一、取引所及金融に關する和洋書數十部

渡邊五郎氏

一、經濟殊に金融、取引所等に關する英書六十餘部

北田樞治郎氏

一、法律に關する洋書百數十部

小田末造氏

毛戸勝元氏

宮島教授の藏書解放
本學事務理事、教授宮島綱男氏の Private Library には經濟商業殊に保險に關する左記の如き外國新聞雜誌が來てゐる由であるが、今回同教授は特に厚意を以て、これ等の藏書を大學藏書同様に篤學者(本學學生及び關係者)

に貸與し成るべく遺憾なく利用せられんことを希望して居られる。

Index:

- A. Annual. D. Daily.
- H. Y. Half-yearly.
- I. Irreg. Irregular. M. Monthly.
- Q. Quarterly. S. M. Semi-monthly.
- W. Weekly.
- 1. The Economic World W.
- 2. Wirtschaft und Statistik..... S. M.
- 3. Weltwirtschaftliche Nachrichten ... W.
- 4. Weltpost W.
- 5. Weltwirtschaftliches Archiv M.
- 6. Fabian-News M.
- 7. The Labour Gazette British Board of Trade) M.
- 8. Industrial Employment Service Bulletin (U. S. Employment Service) M.
- 9. Le Matin D.
- 10. Das Echo W.
- 11. The New York State Magazine ... M.
- 12. Weekly Bulletin of the Health Department of New York City.
- 13. Monthly Bulletin of the Health Department of New York City.
- 14. Bulletin of the Department of Labour and Industries (State of Washington) Irreg.
- 15. Vierteljahrshett zur Statistik des Deutschen Reichs.
- 16. Annual Report and other publications of the U. S. Department of Labour.
- 17. Annual Report and other publications of the U. S. Children's Bureau.
- 18. Statistisches Jahrbuch des Deutschen Reichs.
- 19. The Spectator (American) W.
- 20. The Post Magazine and Insurance Monitor M.
- 21. Insurance Opinion..... M.
- 22. Scandinavian Insurance Magazine M.
- 23. Zeitschrift fuer die gesamte Versicherungs-Wissenschaft M.
- 24. Journal of the Institute of Actuaries (London) H. Y.
- 25. Best's Insurance News W.
- 26. News Letter) the Insurance Society of New York M.
- 27. Insurance Department Bulletin (State of Missouri)..... M.
- 28. Insurance Department Bulletin (State of Minnesota) M.
- 29. Monatshefter fuer Arbeiterversicherung.
- 30. Insurance Blue-Book Y.
- 31. Annuaire des Societes d'Assurances operant en France.
- 32. Versicherungs-Statistik des Deutschen Reichs A.
- 33. Agency Reports (Equitable Life Assurance Society)..... W.
- 34. The Intelligencer (Metropolitan Life Insurance Co.) M.
- 35. Bulletin of the Chicago Insurance Club M.
- 36. The Capital Life Record (Capital Life Insurance Co.) M.
- 37. The Equitable Year-Book.
- 38. Jahrsbericht des eigenoessischen Versicherungsamts.
- 39. Statistical Bulletin (Metropolitan Life Insurance Co.) M.
- 40. Annual Reports of the Insurance Departments of almost every States in the United States.
- 41. Lloyd's Register Shipping Returns Q.
- 42. Annual Report of the Port of London.
- 43. Annual Report of the U. S. Shipping Board.
- 44. Annual Report of the U. S. Commissioner of Navigation.
- 45. Schifahrt-Jahrbuch (Verlagsdienst)
- 46. Monthly Bulletin of the Chamber of Commerce of the State of New York.
- 47. Bulletin Mensuel de la Chambre de Commerce au Japon M.
- 48. Mitteilungen der Handelskammer zu Berlin M.
- 49. Mitteilungen der Handelskammer zu Hamburg S. M.
- 50. Mitteilungen der vereinigten Handelskammern zu Frankfurt a. M. ... M.
- 51. Annual Report of the Chamber of Commerce of the State of New York.
- 52. Annual Report of the San Francisco Chamber of Commerce.
- 53. Annual Report of the London Chamber of Commerce.
- 54. Annual Report of the Amsterdam Chamber of Commerce.
- 55. Compe-Rendu Annuel de la Chamber de Commerce de Paris.
- 56. Compe-Rendu Annuel de la Chamber de Commerce de Marseille.
- 57. Reichsarbeitsblatt M.
- 58. Revue d'Economie Politique M.
- 59. Zeitschrift fuer die gesamte Versicherungs-Wissenschaft Q.
- 60. Jahrbucher fuer Nationaloekonomie und Statistik M.

音樂部新設

本學學友會の事業としては、運動、辯論、文藝等各方面に涉つて、逐年異常の進展を示してゐるが、音樂部としては未だ格別見るべきものがなかつた。唯昨年頃より有志の學生が相寄つて音樂に關する會合を成し、一方練習を積むと同時に、對外的にも時々音樂會を公開するなご成績の見るべきものがあつたが併し統一ある音樂部と稱すべく尙餘りにアンシステマティックであつた。所が今回學生中の音樂愛好者、山中剛(大商一)、野村千代四郎(同上)、中村良之助(大豫一)等の諸君の努力により、大學當局者にも諒解を得て、漸く統一ある音樂部なるものが組織せられるに至つたが、その趣意書並に規則書は左の通りである。

情の極致は無言だ誰か言つたがそれは或一部の場合だけだ。吾々が雄渾なる自然に接した時又非常なる喜悅、悲哀に面した時には決して黙つては居られない。必ず何等かの形式で之を表現するものだ其處に偉大なる藝術の創生がある。詩が生れ聽てそれが音樂によつて飾られる。斯うして大藝術家の名作は其の時代を表象し、世を指導するのである。

後人はこの遺されたる崇高なる藝術より或靈感を享けて更に甦生を企てる。其處に絢爛たる文化の進歩があるのだ。吾々は是等幾多、雄大なる藝術家の軌跡を顧み不朽の名曲を味ふ事によつて何物かを感得しやうと思ふ者である。皮相なる者、淺薄なる人工の偽飾は絶対に許されない。

吾人の眼前に展開される事象に對しては何處迄も眞摯で深刻な生存を續けたい。歌ふ者は宜からう。弾くのは更に宜い。聽くのも亦面白い。

そうして祝福される時は魂限り歌ひ樂しまう呪はれる時は舉つて悲しまう。地に伏して悲しさを音に哭かう。

關西大學 音樂部

關西大學音樂部規則

- 第一條 本部ハ關西大學音樂部ト稱ス
- 第二條 本部ハ音樂ニ關スル藝趣味ノ向上ヲ計リ併セテ音樂ノ技術ヲ練磨スルヲ以テ其目的トス
- 第三條 本部ハ之ヲ器樂部ト音樂部トニ分ツ
- 第四條 本部ノ事務所ハ之ヲ關西大學内ニ置ク
- 第五條 本部ハ關西大學學生ニシテ本部ノ目的ニ賛成シタル者ヲ以テ組織ス

第六條 本部部員ハ維持費トシテ毎月會費ヲ納付スルモノトス

第七條 但シ其金額ハ役員協議ノ上之ヲ定ム 本部ニ對シ寄附金其他ノ援助ヲ爲シタル人士ハ之ヲ名譽會員ニ推薦ス

第八條 本部ニ左ノ役員ヲ置ク

- 部長 一名
- 幹事 三名
- 顧問 若干名

部長ハ之ヲ本學教授講師中ヨリ推薦ス

幹事ハ部員ノ互選ヲ以テ定ム

顧問ハ之ヲ名譽會員中ヨリ推薦ス

第九條

部長ハ本部ヲ總理ス

幹事ハ部長ヲ補佐シ本部ノ目的達成ニ必要ナル事項ヲ掌理ス

顧問ハ本部ヲ指導ス

懸賞募集の審査

本學昇格の記念として、帽章、襟章、應援歌の懸賞募集を企てたことは、本誌前號に於て報道した通りである。(因に、懸賞金の項中帽章の部は帽章、襟章に共通、襟章の部は應援歌の誤である。學内揭示には誤がなかつたので誤解は無いこと、思ふが、茲に正誤して置く)。

その締切までに集つたもの、

- 帽章は 百二十六種
- 襟章は 百四十五種
- 應援歌は 百一十一種

であつた。何れも學報局で豫選し、幹事會に於て詮考の結果、優秀のものを選び、理事會に提出した。何れ次號にその結果を發表する筈であるが、試みに應援歌中特に優秀を認め

らるゝもの數種を左に掲げて大方の批判に俟つこととする。

運動各部應援歌

一 開戦の歌 (各部共通)

若き命のみなされる
塵にひきま交しつ、
友よしばしは手を握らん、
學びの道にいそしめる
契りは深きわれらなり。

若き力のみなされる
腕をかひなちつ、
友よ、しばしは別れなん、
た、かひの地に臨むとも
ねにには深きわれらなり。

今日の一日を戦ひて
明日はふたたび友たらん、
こゝに願はく、もろももに
正義のいくさ華やかに
戦ひ終へて別れなん。

二 野球部應援歌

見よや英姿の颯爽を
清砂輝く戦陣に
歩武を占めたるわがライン、
水も漏らさぬ堅壘に
必勝の意氣敵を呑む
わが關大の健兒なり。

俯しては壘を戒めつ
仰いで外野守らん

虚實の呼吸隙もなく
形影常に伴へる
ナインの胸を貫きて
たゞ一脈の神宿る。

紫電一閃かつ飛ばす
長打、直球、犠牲球、
息もつかせぬ攻撃に
敵の牙城は亂れたり、
ナインの胸に輝ける
赤きマークは血に燃ゆる。

聞けや凱歌のさよめきを
勝利に榮ゆる額の汗
ぬぐひもあへぬわがナイン、
打てば聲あり、駿足の
目にも止らぬ早技は
わが關大の健兒なり。

三 庭球部應援歌

譽れも高きユニフォーム
ラケット持ちし武者振の
心地よきかな關大の
覇業を繼げるテニスマン。

弱敵もの、數ならず
強敵わづか手ごたへの
あるこそよけれ風を切る
熱球魔球意のまゝよ。

牙ぬし妙技に敵陣を
かき亂してぞ攻めかくる
縦横無盡の策戦に
勝利はまたも我れに在り。

勝敗こゝに極まりて
光燦たるユニフォーム
紅顔さらに日に映ゆる
わが關大のテニスマン。

四 角力部應援歌

あゝ關大の榮ある歴史
誇るべき時は來りぬ、
見よ肉弾にみなざる血潮
早や既に敵を壓せり。

仁王の如く土俵に立ちて
武者振ふ猛虎の手練、
敵を轉ばし、突き、押し、倒す
男性美、人みな仰ぐ。

鬼神も怖る勇士の力
心地よや胸透く妙技、
秘術を盡し阿吽の意氣に
悠々き揚ぐる凱歌よ。

あゝ關大の榮ある歴史、
今こゝに光を添へぬ、
豪壯無比の選手を持てる
關大の譽れは無限。

五 蹴球部應援歌

地の理を占めし千里山
正大天地の氣を受けて
猛練習に鍛わたる
わが關大の蹴球部。

見よ健脚に火を發し
魂こもる猛球は

天に高飛び砂を捲き
敵陣深く突撃す。

一蹴二蹴あやまたず
三蹴四蹴もの凄し、
敵の心膽寒かれ
蹴り立てまくる敵の陣。

戦勝てり猛球に
敵を挫きし勝鬨の
響き共に名も高き
わが關大の蹴球部。

×

かつ飛ばせ、ボン、ボン、ボン、
蹴りまくれ、ボン、ボン、ボン、
勝て、勝て、勝つた。
勝て、勝て、勝つた！

六 陸上部應援歌

起源は遠きオリムピア
譽れも高き青春の
競技の萃を聚めたる
わが關大の陸上部、
精鋭こゝに群を爲し
東亞の覇權收めたり。

その鐵腕に健脚に
偉名を揚げしスバルタの
鬼神を今に見る如き
わが關大の陸上部、
榮冠こゝに輝きて
天下獨歩の陣を布く。

俯仰天地に浩然の
意氣高らかに戦ひて
勝利の歡喜絶わ間なき
わが關大の陸上部、
勇躍さらに目ざましく
空にさざろく勝鬨よ。

戦へば勝つ青春の
譽れは常に輝きて
世界に名をば轟かす
わが關大の陸上部、
來れわが友もろごもに
選手の榮を讃へなん。

×

痛快、走れ、走れ、
草駄天、飛行機、走れ、走れ、
痛快、痛快、痛快！
素敵！素敵！

×

飛べや飛べ飛べ
空まで飛べや
足に邪魔する
風も無い、
飛べ、飛べ！

×

投げよ投げ投げ
レコード作れ
千手觀音
あらたかに。

七 勝利の歌 (各部共通)

勝った、勝った、勝った。
 關西大學また勝った。
 われらの選手は精銳無雙、
 われらの選手は剛勇無敵、
 戦常に勝るなる
 われらが譽れは世界に響く。
 勝ちて驕らぬ意氣はあれ、
 しばしは許せわが勝鬨を、
 青春のわれらの誇りせんに。
 勝った、勝った、勝った、
 關西大學また勝った！

八 敗戦の歌 (各部共通)

惜しや長蛇を逸すこも
 何か怖れん空寂寂、
 見よ復讐の一戦に
 木ッ葉微塵に踏みまくる
 勇健無雙の武者振を。
 けが負け、けが負け、
 ホイ、ホイ、ホイ、
 男子の雅量見たかホイ、
 ホイ、ホイ、ホイ。

メタル賞牌徽章
 帽章金銀盃専門
銀眼堂商會
 ギンガン堂の製品を
 是非一度御試し下さい

(大 阪 市 南 区 饅 谷 仲 丁 八)

昇格記念 夏期地方文化講演會

本學學友會辯論部が年中行事の一として毎年盛大に敢行する夏期地方遊説は、本年度も頗る成功裡に遂行された。即ち前號所載の如く遊説總員は之を二隊に分ち第一隊は山陽方面へ、第二隊は四國方面へ赴いたが、當學報局に原稿を寄せられた第一隊の成績は左の通りであつた。

先づ七月二十九日午後七時より岡山市縣會議事堂に於ける講演を皮切りに、翌三十日は尾道市淨泉寺に於て、八月一日は廣島市公會堂に於て開催し、各地共新聞社の後援に併せて熱烈な辯論に市民の人氣を沸騰せしめた。主要演題及辯士名は左の如くである。

- 一、教育の本義を論ず
大隈生 上木 卯吉君
- 一、婦人に就ての考察
法科生 小林 太三郎君
- 一、世界大勢と今後の教育
商科生 岡村 順藏君
- 一、國際會議より見たる世界的不安對米國
法科生 吉村 富太郎君
- 一、結婚制度の缺陷を論ず
法科生 木村 檜太郎君
- 一、社會改造と憲政國民の主張
商科生 石田 新十郎君
- 一、立憲治下國民の自覺を促す
法科生 江村 至身君
- 一、民衆生活の理想
研究科生 三島 律夫君
- 一、社會問題の法律的考察
講師 高木 益郎氏

校友の面影

▲帝國興信所長

後 藤 武 夫 氏 ▼

明治三十年慶本學法科出身



「老ひて益々壯なり」といふ言葉は氏によつてその代表的實例を見出すことが出来る。氏は明治三十年本學法科の出身であるが、その在學當時の苦學奮勉實に辛酸甜め盡せる狀は親父の脛小僧を嚙り高等下宿の二階に便々として爲す所なき今日の青書生に對し蓋し痛烈なる刺戟劑であらう。その今日の大成すに至るまでの詳かな氏の經歷は氏が自ら主宰する雜誌「努力」の毎號連載する所であるが、實に立志傳そのものと言つても敢て過言するに足りない。

既に周知の事實である。氏や實に今尚ほ立派な一個の青年である。而も蒼白い顔して巷を彷徨する軟弱青年輩が氏の前に立たんか、忽ち冷汗三斗の感なきを得ないであらう程左様に潑刺たる意氣の持主である。吾人は茲に氏が自重奮勉、以て益々邦家のため盡瘁せられんことを希望して止まぬ次第である。

氏が自ら謂ふ所の如く、青年と老年とを區別する標準は當にその年齢の如何、身體の壯否にあるのではない。實にその意氣を以て決すべく、その精神を以て判別すべきである。十歳前後にして既に萎靡沈滞せる老人があ

校友會報

福岡支部總會

福岡市並にその附近在住の校友諸氏に依て今春新に設置せられた本學校友會福岡支部に於ては、八月七日午後六時より折柄來福中の本學專務理事官島綱男氏一行を迎へて夏季總會を博多東中洲カフエ、パウリスタの大廣間に於て開催、校友の會する者約二十名、外に恰も歸省中の本學講師金生喜造氏も出席、先づ池田支部長の開會の辭及び山岡總理事よりの祝電の朗讀あり、次で宮島氏は一行を代表して挨拶を兼ねて本學の近況殊に當面の擴張計畫等に就きて詳細報告且説明する所ありそれより各自在學當時の懐舊談等に花を咲かせ十時半和氣霽々裡に散會したが頗る盛會であつた。

岡山支部大會

本學校友會岡山支部では恰も地方校友歴訪中の宮島專務理事一行の來岡を機とし夏季大會を岡山市内石山佐々岡樓上に於て開催した來り會する者三十餘名先づ横田支部長が開會を宣し且つ總理事山岡順太郎氏より懇々本會合のために寄せられた祝電を朗讀し併せて簡單に會務の報告をすれば、宮島氏は立つて一行を代表して挨拶を述べ次で大學の現狀並に將來の擴張方針等を報告説明し益々校友諸氏に俟つ所多き所以に論及す、かくて本年度後半期の幹事の選舉に移つたが横田支部長の指

名で滿場異議なく左の通り決定した。

- 横田長次郎氏 吉岡 榮八氏
- 大森芳三郎氏 恩藤 誠一氏
- 堀口藤治郎氏 平賀 松男氏
- 小松 雅氏

それより各自快談縱横、腹藏なき意見の交換に夜の更けるをも知らぬ有様であつたが、宮島氏一行がその夜の夜行列車で歸阪の途に就かなければならなかつたので何れも恨めし氣に時計の針を眺めながら横田支部長の閉會の辭と共に盛會裡に散會した。

(因みに表紙寫眞は當會決定の幹事諸氏と宮島氏一行)

鴻鳴會總會

本學商科、經濟科の本年度卒業生中の有志諸氏が、その在學三ヶ年間を通じて、相互の親睦の機關として組織してゐた鴻鳴會は、卒業後第一回の總會を去る七月二十二日夜、市内南區戎橋畔カフエ、パウリスタに開催したさうであるが、別項山口氏の寄書が示す如く、各自在學當時の追憶、卒業後の變化等談盡くる所なく頗る盛會であつたこのことである。

因に出席者並に本年度の同會幹事諸氏左の如し。

- 出席者氏名 イロハ順)
- 糸島實太郎氏 長谷川九一氏
- 岡崎一雄氏 近江 仁氏

- 大谷盛光氏 大谷鹿一氏
- 和田正節氏 横井吉造氏
- 巽 鐵太郎氏 辰巳寅造氏
- 中村峯藏氏 中村良之助氏
- 長久保昇氏 上田俊夫氏
- 山口蓼夫氏 矢野國臣氏
- 谷喜代雄氏 榊原貞則氏
- 初谷茂信氏

尚は會員中、三島律夫氏は山陰地方へ旅行の爲、又八木三藤川等の兩氏は、前者は滿洲方面へ、後者は廣島方面へそれぞれ商用を帯びて出張中の爲何れも缺席。

本年度幹事

- 長久保 昇氏(新) 矢野 國臣氏(再)
 - 三島 律夫氏(再) 榊原 貞則氏(再)
- (矢野氏の寄書より)

國家試験及第者

本學校友中今回施行せられた判檢事及辯護士筆記試験に及第したる諸氏は左の如くである。

△印は中途退學者

- 判檢事筆記試験及第者 (發表順)
- 稻森健次郎 大西三津治 白須賀芳彦
- 瀧石政治郎 高橋猪久次 山下 菊一
- 和田作太郎
- 辯護士筆記試験及第者 (發表順)
- 荒賀 勝平 池島源之丞 稻森健治郎
- 井上 守三 飯島善之助 大木 幾馬
- 大西三津治 川邊 辰雄 △栗山 俊一
- 香山 親雅 新貝 康男 住田木太郎
- 瀨良 智一 田中 英一 高木 敏夫
- 高橋喜久治 瀧石政治郎 徳原 義三
- 徳矢清太郎 虎谷奎太郎 長澤 盛一
- 中谷 良夫 西本 寛一 △西 源一郎

校友 勳 靜

- 元大阪控訴院判事 明治 三三法 田村泰藏氏
- 被補和歌山地方裁判所部長判事
- 元吳島地方裁判所 三五法 永田良雄氏
- 兼廣島地方裁判所
- 吳支部檢事
- 被補和歌山地方裁判所檢事
- 元佐賀地方裁判所 二二法 山口直三郎氏
- 檢事正、檢事
- 被補名古屋控訴院檢事
- 元中津區裁判所檢事 四五法 古屋 東氏
- 兼大分地方裁判所
- 所中津支部檢事
- 被補佐賀區裁判所檢事兼佐賀地方裁判所檢事
- 元京都地方裁判所 四五法 池内覺太郎氏
- 檢事兼京都區裁判所
- 所檢事
- 被補奈良地方裁判所檢事兼奈良區裁判所檢事
- 元名古屋區裁判所 三四法 三島恒三郎氏
- 檢事兼名古屋地方
- 裁判所檢事
- 被補名古屋地方裁判所檢事兼名古屋區裁判所檢事
- 元東京地方裁判所 大正 七法 谷口一長氏
- 司法官試補
- 被補岡山地方裁判所
- 元東京地方裁判所 九法 滿田清四郎氏
- 司法官試補
- 被補鳥取地方裁判所
- 元東京地方裁判所 六法 北浦圭太郎氏
- 司法官試補
- 被補函館地方裁判所檢事

明治三四法 木下幸平氏
 公的生活としては専賣局副參事官として徳島地方
 專賣局事業課長の榮職に在り、私的生活としては秋
 聲會系木太刀派俳人として眉城と號し木太刀四國
 支社を主宰し斯道に力を盡して居らるゝ由。

大正九法 高梨乙松氏
 今春辯護士試験に登第、事務所を東野田の自宅及
 清瀬博士方に置いて法律事務に従事して居られるが
 今回海軍大臣より海軍辯護士の指定を受けられ大に
 に發展の由。

五法 澤井 保氏
 今春辯護士試験に登第、北區空心中に於て辯護士
 開業

三法 林 繁氏
 大阪府警部として天王寺警察署在勤の所今回蘆原
 警察署に轉勤

六法 橋本民三郎氏
 同上戎警察署在勤の所今回若松町警察署に轉勤
 六法 長尾幸治氏
 同上大阪府警察署在勤の所今回戎警察署に轉勤
 明治四五法 川瀬 宇吉氏
 長野縣西筑摩郡長在任

本學幹事 四四法 木下孫一氏
 今回北區上福島北一丁目一五六番地(打越橋東詰
 北へ入る)へ轉居せらる。

校友改姓名
 大正一一經 石原芳太郎 改兒玉芳太郎
 同 法 花本 春吉 改花本 憲
 大正三經 放岩芳太郎 改松本 芳太郎

校友住所録 (イロハ順)

大阪市内の部 その二
 武内 作平 (明治) 衆議院議員辯護士
 (三三法) 東區北濱三ノ一二
 武田貞之助 (三四法) 辯護士 東區今橋五ノ二六

垂水幸太郎 (同) 本大學理事 北區川崎町四七
 關甲商主事 西區五條通二ノ二七
 高 鳥巧 (三一法) 南區御藏跡町二一
 竹谷 善隆 (同) 西區役所第二課
 高橋 榮次 (三三法) 大阪市役所電氣部
 瀧尻捨次郎 (同) 北區富田町二四
 寶多 榮藏 (三六法) 大阪市役所電氣部用地掛
 武森 武市 (三七法) 東區東雲町一ノ一七
 田中 齊造 (同) 辯護士 北區老松町二丁目三
 高村久之助 (三九法) 辯護士 南區北桃谷町九
 谷田詣十郎 (同) 檢事 大阪區裁判所
 竹内虎治郎 (同) 辯護士 北區堂島中二丁目四
 武村 英男 (四〇法) 辯護士 四ノ三
 高松林之助 (四一法) 東區南久太郎町一丁目
 瀧川 堯 (四三法) 北區上福島中四丁目一ノ六
 高橋 周吉 (四四法) 辯護士 北區堂島船大工町一
 田中 可長 (四四經) 大阪市役所水道課
 立岡 喜一 (大正) 辯護士 東區高麗橋三丁目三
 田代 春雄 (同) 北區北野芝田町一五三
 竹崎 米吉 (同) 大阪府警察部保安課警部
 高宮 角市 (三經) 北區西野田今開町五一九
 丹原 長七 (三法) 大阪區裁判所書記
 武石 貞雄 (三三法) 東區玉造町四一九
 但馬 直吉 (推) 辯護士 西區土佐堀裏町一四
 竹島 吾平 (四法) 北區北野堂山町四六一
 伊藤方
 竹西 宗助 (六法) 西區北堀江御池通四ノ二
 角野方
 谷田俊二郎 (同) 警部 西區南堀江上通五ノ
 三五
 竹田住次郎 (同) 東區玉造警察署
 竹中常三郎 (同) 東區農人橋二ノ三九
 田中 織 (七法) 東區島町二丁目三〇
 瀧本 貢 (同) 辯護士 北區絹笠町大江ビル
 デイソウ六號
 高木龜太郎 (八法) 辯護士 東區木野町四五
 久保辰次郎方
 高橋 末吉 (同) 西區阿波座二番丁一ノ一二
 玉島 貞治 (同) 北區上福島一丁目四七一

高木惣太郎 (同) 大阪水上警察署警部補
 竹内 信一 (同) 北區與力町二ノ四二〇
 武並 覺郎 (同) 北區西野田大開町八九三
 田中 敬治 (八商) 西區本田三番丁二四ノ一八
 城戸正録方
 田窪 臺吉 (同) 北區上福島北一ノ一三九
 石田方
 高梨 乙松 (九法) 辯護士 北區東野田町五丁目
 谷野 伴七 (同) 北區西野田中江町二六〇
 忠政 競 (同) 北區若松町警察署
 垂井 保 (同) 西區土佐堀一内務省
 大阪土木出張所
 田中 依男 (推) 東區伏見町三ノ一四
 上島益三郎方
 田中 英一 (二〇法) 西區土佐堀通二
 柿崎欽吾方
 田中 西藏 (同) 西區阿波座三番丁二四
 中尾方
 田邊 一喜 (同) 南區南桃谷町一五、一六合
 併地阪本方
 谷口 武雄 (同) 西區立賣堀裏町三九
 片山梅太郎方
 高畑彌三郎 (二〇商) 西區三軒家上ノ町四一
 竹内 國藏 (同) 北區老松町二ノ三
 高村久之助方
 田邊 紀一 (同) 東區紀伊町九三八
 竹中 友治 (同) 東區島之内警察署
 曾我部八百八 (九法) 北區上福島北一ノ一三九
 鎌谷巽方
 十河 政一 (二〇法) 西區三軒家第一尋常小學校
 筒井 益三 (四三法) 西區北堀江御池通五ノ九
 辻村 庄作 (四五商) 西區西野田江成町二
 辻村 政治 (大正) 辯護士 西區西野田江成町二
 九三
 筒井 春尾 (四法) 西區新町南通三ノ一七八
 常光 益吉 (五法) 北區中之島三菱銀行
 筒井 英隆 (七法) 東區大川町住友總本店
 塚本駒次郎 (八法) 北區若松町警察署
 塚本伊三郎 (九法) 北區堂島中一ノ五〇
 椿 了 (九經) 北區川崎町三菱製煉所
 坪倉 春次 (二〇商) 北區上福島中一ノ一二
 村上方
 鶴田 利三 (二〇經) 西區江戶堀上通一ノ二七
 前野方

校友逝去
 大正十一年八月八日
 京都市上京區新町通下立賣上ル
 南條 廣 治 氏
 (明治二十九年法科卒業)
 右計ニ接シ謹シテ申意ヲ表ス

根岸 元 (八法) 北區上福島北三、一八五ノ
 一〇
 西區川岸町鐵道省安治川口
 倉庫
 根岸 中 (九法) 辯護士 東區道修町五ノ二七
 內藤 正知 (明治) 辯護士 東區大川町六三
 長尾 梅吉 (三一法) 辯護士 東區北濱五ノ二六
 中村 儀藏 (三四法) 辯護士 南區瓦屋町三番町四
 中學校 南區瓦屋町三番町四
 南院 泰記 (同) 教諭
 永野源兵衛 (三五法) 大阪市役所衛生課
 中村 譽助 (三六法) 東區谷町一ノ三一植田トク方
 內藤 正剛 (三七法) 辯護士 東區今橋五ノ八
 中島 昌平 (同) 西區三軒家上ノ町三
 中村虎次郎 (三九法) 辯護士 北區絹笠町一〇
 中川 太郎 (推) 辯護士 東區大手町一ノ三
 中村 敏雄 (四二法) 辯護士 東區島町二ノ三六
 中村 義雄 (同) 東區弓久寶寺町二ノ二七
 長友 千三 (四四法) 東區北濱三商業興信所
 中原 健造 (四五法) 北區西野田吉野東ノ町四三
 內藤 滋治 (四五經) 東區谷町五ノ五六
 中塚 正信 (大正) 辯護士 北區堂島中一ノ五〇
 中尾 多市 (同) 東區東雲町三深澤方
 中村 公男 (同) 辯護士 西區西長堀南通二ノ
 二〇
 中村 廉 (三法) 北區富島町大阪商船内航課
 中務 平吉 (推) 辯護士 東區淡路町一ノ二九
 中村 三徳 (同) 北區堂島大阪毎日新聞社
 中村 幾造 (四法) 北區本庄横道町一五一
 中村 常八 (五商) 東區清水谷西ノ町二九三
 平井方

中尾 義雄 (六法)	北區本庄葉村町	村上 良吉 (四商)	東區橫堀三丁目四一	倉本爲三郎 (六法)	西區江戸堀南二日本海上火	山田 義直 (九法)	東區今橋四ノ一五田中方
永田規矩夫 (同)	北區本庄葉村町一八八	村岡吾一 (五法)	西區西九條上ノ町九九二	口井 光助 (八法)	南區難波警察署	山本芳三郎 (九商)	東區京橋一内外商事株式會社
納谷建太郎 (同)	大阪地方裁判所書記	村井 知治 (五商)	北區岩井町二ノ三二	工藤 英武 (同)	南區二ツ井戶二三	藥師寺 一 (推)	北區西野田玉川町四
中野 繁 (同)	西區九條南通二ノ一七四	上村 豐 (明九法)	辯護士 東區高麗橋五ノ一七	榎橋 浩輔 (同)	西區平島町日本鐵鋼所	山崎 猛虎 (同)	辯護士 東區高麗橋二川崎方
長尾 幸治 (同)	大阪府戒警察署警部	上島 信敏 (三九法)	東區伏見町三ノ一四	山田 忠雄 (九法)	北區上福島北一ノ七六	山中治三郎 (同)	北區東梅ヶ枝町六〇〇辻方
中村 岩見 (六商)	西區江戸堀南通五ノ三四	上島 信敏 (三九法)	北區東梅ヶ枝町六〇九	山口 洞 (明三法)	北區梅田驛前野組運輸部	山田 一太郎 (同)	北區中之島大倉商業學校
中田克巳知 (推)	辯護士 北區西野田玉川町四	植村久太郎 (推)	大阪地方裁判所判事	山口 秀穎 (三二法)	市會議員辯護士本學監事	山田 壽男 (同)	西區土佐堀通一ノ六平佐方
中村 光治 (六法)	北區富島町住友銀行川口支店	上野喜重造 (二六法)	北區宗是町三八	山室 要 (三六法)	西區南堀江五ノ五	圓井 精 (明三法)	東區平野町一ノ三三鐘方
中村 利三 (七法)	西區江戸堀上通一ノ一	上迎 猶吉 (三三法)	大阪切抜通信社	山室 潤 (四一法)	西區土佐堀一加島銀行	丸山 昔生 (同)	辯護士 北區若松町四五
中野榮次郎 (同)	北區堂島濱通一林傳商店	內堀憲太郎 (五商)	東區北濱五住友合資會社	山口 慶喜 (同)	南區桃園第一尋常小學校	松政庄三郎 (同)	東區上本町六ノ一五七
中原 收平 (同)	西區西稅務署	海島 透 (六法)	北區本庄橫道町一七七	山口 嘉一 (四一經)	辯護士 西區新町一三五	松本 靜史 (三九法)	辯護士 北區源藏町五
長澤 俊二 (同)	南區高津十番町一四	植田庄太郎 (七法)	南區順慶町三ノ一九三	安井 鹿士 (推)	辯護士 北區若松町二三	眞珠 清彦 (同)	西區鶴町一特二二號
仲野 英一 (七商)	北區堂島濱通二ノ六	植田 七郎 (八法)	東區島ノ內警察署警部補	山岡 精夫 (四二法)	大阪市役所電鐵部	前田米太郎 (四〇法)	北區壺屋町一ノ一八
中山 豐三 (推)	南區天王寺悲田院町一、九	右近權左衛門 推	西區西長堀北通五日本海上	山本 高造 (四五法)	東區內淡路町二ノ七八	松井 謹一 (同)	大阪市役所電鐵部運輸課
中谷 夏夫 (八法)	北區北野堂山町四六五	梅 豐二 (九法)	西區西長堀北通五日本海上	山本 文雄 (四五商)	東區島町二ノ四四	眞山 節藏 (四二法)	南區天王寺石ヶ辻町小畑方
名越虎次郎 (八商)	西區薩摩堀西ノ町七	浦田關太郎 (同)	北區西福島中一ノ一九	山崎 常次 (二六法)	北區此花町一丁目一六	松村 作二 (四三商)	北區梅田町內國通運大阪支店
中西 泰一 (八經)	西區江戸堀下通一ノ九三	鶴岡金次郎 (一〇法)	北區福島二ノ七七八竹中方	山田 俊三 (同)	警部補 岸本方	松川 茂三 (四四法)	東區平野町二北村商店
中村 豐高 (九法)	北區壺屋町一ノ一七	野島藤次郎 (三〇法)	北區上福島北三ノ一七八	安岡 伸次郎 (同)	辯護士 北區樋ノ上町九〇	益田市五郎 (二六法)	北區役所會計係
永井 量一 (同)	西區道頓堀通三河野通則方	野崎計太郎 (三二法)	大阪市役所救濟課	山本 音次郎 (三三法)	大阪市役所水道部擴張課	松原 清史 (二商)	北區堂山町四八二
中川庸太郎 (同)	北區北野東町自香寺內	野村 吉藏 (三九法)	北區上福島北一ノ一四四	藥師寺鎮男 (同)	辯護士 東區德井町一ノ九	松島武三郎 (二經)	大阪商船會社奉天丸事務長
中野 徳司 (同)	東區中道川西町三〇	野口政次郎 (六六法)	本學幹事	山田 俊治 (四法)	北區西野田今開町五七六	増田房次郎 (三三法)	南區上本町七ノ二五六六
中川八百八 (同)	東區島ノ內警察署	能海 武敏 (七法)	南區戎警察署	山本 道俊 (同)	西區新池田町二八ノ二	松本芳太郎 (三三經)	會社取締役
內藤芳太郎 (二〇法)	南區天王寺石ヶ辻町五三	則武 耕次 (二〇商)	北區北野茶屋町二五一	山根 瀧藏 (同)	辯護士 北區中之島二ノ一九	松浦 峻 (四商)	北區佐藤町三
梨岡時之助 (同)	南區日本橋東一	黒田莊次郎 (二二法)	西區土佐堀通一ノ二	山田 九藏 (七法)	北區堂島中二ノ二塚越方	松崎 友一 (同)	西區大阪府鉛鑛業株式會社
中村 島市 (二〇商)	橫川政之助方	黒田代次郎 (三五法)	東區清水谷西ノ町	山口 武雄 (七商)	西區阿波屋下通一淡陶株式會社	前田 眞次 (同)	北區役所第一課戶籍係
中田 忠次 (同)	北區會根崎上一丁目一二	栗尾 高三 (四〇法)	東區東平野町五ノ一	山口 勝三郎 (同)	東區橫堀二ノ二七	前田 榮一 (推)	東區內本町二福徳生命大阪支店
村松 岩吉 (明三法)	西區土佐堀裏町二八	久木山四郎 (四三法)	大阪稅關築港貨物課	山下 善作 (同)	西區江戸堀南通二ノ一四	松園 竹藏 (七法)	東區生玉町九六
梅崎 極 (三一法)	公證人 西區新町南通二ノ一	久保 幸則 (四四商)	北區當田町一九ノ七	役谷 好 (同)	東區玉造警察署警部補	前川 美知 (八法)	北區西野田大野町二ノ六〇
村上 類市 (三六法)	北區旅籠町四	葛原 憲治 (三六商)	東區道修町二土岐淺太郎方	山本 芳文 (八商)	西區江戶堀南通二ノ一一	松本 二郎 (八經)	北區堂島北町二〇藤田鑛業會社
村尾 靜明 (三七法)	西區築港七條通一ノ二	黒田 新吉 (四商)	東區釣鐘町一丁目生田方				
村井治三郎 (三九法)	東區和泉町一ノ二三						
村田多滿雄 (四五商)	北區上福島一、四六〇ノ二						
古谷方 (四五商)							

正木 公雄 (八 法) 南區日本橋四ノ六
 松野晋次郎 (八 商) 南區二ツ井戸五番地
 前川良太郎 (九 法) 東區平野町二ノ二大池忠吾方
 前川長次郎 (九 商) 北區東梅田町二九八
 松本信太郎 (同) 東區生玉町一一一酒井方

本誌維持費受領報告

(到着順)

貳	圓	三一法	栗原 毅氏
同	上	大正二經	岩堀 敏郎氏
同	上	同三商	生島 藤藏氏
同	上	同三法	平賀 松男氏
同	上	同七法	木村佐太郎氏
同	上	三四法	木下 幸平氏
同	上	大正二商	奥村 治氏
參	圓	同六法	西田小太郎氏
同	上	四四法	小倉 清助氏
壹圓	(半ヶ年分)	大正九法	別木 靜哉氏
貳	圓	三五法	平田 金次氏
同	上	四〇法	赤堀 政基氏
同	上	大正三商	本田 孝一氏
同	上	同二法	尾川 隆二氏
同	上	同四一法	並平 生駒氏
同	上	明治四一法	守屋 伯市氏
同	上	大正三法	高野 時治氏
同	上	同	新居 寛氏

松原 民郎 (九 經) 北區四寺町二ノ七九四
 前山 茂 (二〇法) 北區老松町三ノ六五古賀英方
 松永 善光 (二〇商) 北區上福島北二ノ一〇九野方
 松永鹿之助 (同) 北區上福島一ノ七二〇三上いさ方

松木 作治 (同) 北區西野田中江町一八八
 松永 三郎 (同) 南區天王寺上ノ宮町五三二八

校友住所移動

石合 操 (大正) 兵庫縣美濃郡三木町府六七九
 池口幸太郎 (同) 三島郡島飼村大字中
 花本 憲 (同) 廣島縣豊田郡忠海町一六六九
 西本 寛一 (同) 奈良縣宇智郡南宇智村靈安寺
 大西貞之助 (同) 東京市麻布區新網町一ノ一七
 山崎 藤吉 (同) 北區本庄中野町四二七
 福岡 福一 (同) 愛媛縣温泉郡古之津村北口方
 新原新太郎 (同) 香川縣仲多度津郡普通寺町片原町
 平松紋次郎 (同) 東成郡墨ノ江村濱口小川福松方
 奥村 治 (大正) 東區内久寶寺町三ノ二七
 小川 成雄 (同) 山内郡甲商店内
 倉庫 北區東梅田町共成合資會社
 穀谷 茂信 (同) 神戸市海岸通一〇番地
 岩堀 敏郎 (大正) 橫須賀市公郷一三三五
 永井 嘉吉 (同) 廣島縣御調郡糸崎町九〇八
 木村七五三太郎 (同) 西成郡今宮町松原通三ノ五二四
 藤井彌一郎 (同) 南區天王寺松ヶ鼻町五四六八森田米三郎方
 (以上第一號掲載の分)
 穂積 修 (大正) 東京遞信省貯金局規畫課
 長 義道 (明正) 大阪市役所電鐵部梅田出張所長
 尾川 隆二 (大正) 東區淡路町三、淡路町ビル
 河野龜太郎 (明正) デイニング内會計士
 橋本民三郎 (大正) 金澤爲替貯金支局貯金課
 (以上第二號掲載の分)

校友住所錄追加

兒玉芳太郎 (同) 市外鷺洲町北浦江四七
 (以上第一號掲載の分)
 片山 義忠 (大正) 辯護士松町二ノ三〇
 河野 通雄 (二〇經) 北區上福島中四、伊藤久次郎方
 鍵谷彌一郎 (九 商) 北區堂島濱三親商船會社内
 (以上第二號掲載の分)

校友會東京支部の狀況

本學校友會東京支部の狀況に就て、今回同支部幹事岡本四郎九氏より校友後藤武夫氏を経て寄せられた通信を左に掲載する。

東京に於ける關西大學校友は最初有志で時々懇親會を催して居りましたが、一時中絶の姿となりましたのを明治四十四年十二月十七日東京附近在住の校友が集つて懇親會を開きました。出席者は前學長加太憲氏を初めまして堀江榮一、岩崎幸治郎兩講師外二十二名でした。其際校友會東京支部設置の決議をなし支部長に加太氏を、副支部長に河村善益氏を評議員に前講師板倉松太郎氏外二十五名を、幹事に内田重成氏外十五名を推薦し、事務支を武田宣英氏方に設け爾來毎年春秋二期に所部大會を開催することにしました。

其後大正七年より事務所を後藤武夫氏の經營に係る京橋區南八丁堀一丁目(櫻橋南側)帝國興信所内に移しました。尙同年支部長加太副支部長河村兩氏が何れも辭任を申出でられたので、改選の結果内田重成氏(本學第一期卒業現海軍省法務局長)を支部長に、武田宣英氏を副支部長に推し、同時に幹事を増員し

ました。
 現在の幹事は、小野鹿一、尾關義一、岡本四郎九、山田善之助、山本仲次郎、牧野充安、松田善隆、松澤卓規、藤原喜市、藤田實雄、後藤武夫、後藤徳太郎、赤堀政基、作間耕逸、進藤紫朗(以上東京)、神田民作、安村竹松、平松廣八(以上横濱)の十八氏であります。而して現在の在京校友で住所の判明して居る者が二百五十名内外あります。在京の方で住所の判明しないのも大分あると思ひますが、成る可く最近上京された方は住所の御通知を願ひます。尙時折事務所に御來光になりますれば何か御便宜を計り度いと思ひます。

大阪書店中ノ唯一ノ本學校友
 關西甲種商業學校 西關中等學校 大西商業學校 西關商業學校
 教指定書販賣 教科書 專門書
野島書店 文明堂
 (目了三北島福上區北市阪大)
 (一九九九三阪大替振・六八二一土電)

關西甲種商業學校彙報

第一學期終業式

本學年度第一學期試験は、各學年共去月十一日に始められ、第一、二學年は同十五日終了し、第三、四、五學年は同十七日終了した。依つて便宜上左の如く終業式が舉行された。

- 第一、二學年 七月十五日午前十時半より 大講堂に於て
- 第三、四、五學年 七月十七日午前十時半より 大講堂に於て

式は垂水主事の訓話、小泉教頭及島田生徒監の注意等があつて何れも午前十一時半閉ぢられた。

水泳練習成績

本校の夏期水泳練習は去る七月十八日より同二十八日迄堺大濱海岸に於て行はれたが、教師は島田、岡本、道端、木戸、中村、古川の六氏で、練習生は總計百八十六名であつた。今その學年別及十町以上の試験合格者を示せば左の如くである。

- 第一學年(六十一名) 第二學年(六十名)
- 第三學年(三十四名) 第四學年(十九名)
- 第五學年(十二名)
- 十町合格者
- 伊丹 武夫(一ノ二) 常岡 馨(一ノ二)
- 谷内嘉三郎(一ノ二) 佐藤 重成(一ノ二)
- 絹田 七郎(一ノ二) 下村鶴之助(一ノ二)
- 石田兵太郎(一ノ二) 河合 正利(一ノ二)
- 坪井 重成(一ノ二) 松井 義夫(一ノ二)
- 杉山 秀雄(一ノ二) 鈴木 武雄(一ノ二)

- 井倉 俊雄(二ノ二) 西澤正治郎(二ノ二)
- 中辻 義三(二ノ二) 前川市三郎(二ノ二)
- 和田 忠義(三ノ二) 吉田 一雄(三ノ二)
- 濱野 定雄(三ノ二) 萩原 三郎(三ノ二)
- 二十五町合格者
- 石田徳三郎(一ノ二) 埴 誠之助(一ノ二)
- 田中 清隆(一ノ二) 阪井 威(一ノ二)
- 清光清一郎(一ノ二) 池川 浩(一ノ二)
- 國行 繁夫(一ノ二) 松田 楠一(一ノ二)
- 松本菊太郎(一ノ二) 織田 正人(一ノ二)
- 大戸 宇藏(二ノ二) 米田 俊夫(二ノ二)
- 松谷吉太郎(二ノ二) 松田 眞市(二ノ二)
- 三野 義人(二ノ二) 東田 博雄(二ノ二)
- 辻 日出男(二ノ二) 村田 利七(二ノ二)
- 松尾 孝(二ノ二) 白井 秋水(二ノ二)
- 井 和夫(二ノ二) 大江順三郎(三ノ二)
- 勝村 一郎(三ノ二) 益田幸治郎(三ノ二)
- 北川 保三(三ノ二) 神谷喜代治(三ノ二)
- 堀尾 貫文(四ノ二) 松葉 清治(四ノ二)
- 水垣 恭三(五ノ二)
- 五十町合格者
- 村井 義雄(一ノ二) 前田 末吉(一ノ二)
- 泉 光一(一ノ二) 細川 眞一(一ノ二)
- 宇田 義雄(二ノ二) 堀田 正(三ノ二)
- 高塚 輝雄(三ノ二) 加藤萬古刀(三ノ二)
- 上田 幸夫(三ノ二) 滿田 三郎(三ノ二)
- 矢野 一馬(四ノ三) 小寺 寛治(四ノ三)
- 松永 勇治(五ノ二) 早川 爲男(五ノ二)
- 百町合格者
- 西川 靜治(二ノ二) 岡本徳次郎(二ノ二)
- 上井嘉一郎(二ノ二) 臣川 義雄(二ノ二)

- 八十 周次(二ノ二) 今井 清(三ノ二)
- 尾本 眞治(三ノ二) 辻井 恒三(三ノ二)
- 福原菊治郎(三ノ二) 濱崎 潔(三ノ三)
- 池下佐一郎(四ノ二) 和田 穆(四ノ二)
- 笹部卯之藏(四ノ二)

第二十二回大會と本校選手

去月六、七、八の三日間に亘り、大日本武徳會本部に開催せられた、第二十二回青年演武大會に出演の左記諸君は、團體、個人の各試合共豫想外の好成績を得た。

(柔道部)

- 先鋒 山田秀太郎(四ノ二)
- 二將 水野安太郎(五ノ二)
- 中堅 若林幸太郎(五ノ二)
- 副將 森島恒夫(五ノ二)
- 大將 小林吉太郎(五ノ二)
- (劍道部)
- 先鋒 川喜田彰郎(四ノ三)
- 二將 田村秀次郎(四ノ二)
- 中堅 池澤勝也(五ノ二)

第二學期始業式

七月二十六日よりの夏期休暇も九月五日を以て終つたので、同六日午前九時より第一講堂に於て始業式を舉行した。

本學期第一回職員會議

去る五日午前九時より階上會議室に於て第二學期に於ける第一回の職員會議が開催された。當日は垂水主事以下職員全部出席し、校務一般に關する協議が行はれた。

學生のゲートル廢止

最近中等學校生徒のゲートル着用可否に就ては識者間に相當論議されてゐる所であるが、本校に於ては他の諸中等學校に先んじて本學期より之を試験的に廢止する様去る職員會議に於て決定された。

如何なる皮肉家も御來店の上帝解決あれ

關西大商業指定

西區京町堀上通三丁目

難波洋服店

電話土佐堀二六三五番

人類争闘則の社會學的考察 (承前)

(F. H. Giddings 教授社會學說研究の一)

教授 ドクトル、オヴ、フキロンフキ一

岩 崎 卯 一

七

Darwin が發表したる生物學的淘汰の峻嚴なる法則が廣く學界に承認され初めた時之によつて多大なる脅威を痛感し、彼の説に對し痛快なる反擊駁論を加へ得る闘士の出現を、最も切實に嚮望しつゝあつたのは、古神學の教理を固執せる傳統的宗教の信徒達であつた。全智全能の大靈の恩寵、地上の樂園、人類の平和等を疑ふ餘地なき眞理なりと確信せる彼等には、Darwinian theories of evolution に關する學者の忌憚なき論争は、恰かも聖典の尊嚴を冒瀆する背信者達の行爲の如く感ぜられた。此の時に當り、彼等が抱懐するこの顯然たる敵意に依り醸成せられたる反進化論的雰圍氣を利用して、新社會進合理論の提唱者なりと自稱し、Sensational warfare を開始したのは狂熱的社會學徒 Benjamin Kidd (1858)であつた。千八百九十四年に、彼が發表したる "The Social Evolution" (社會進化論) は、當時の英國讀書界を驚倒せしめ彼をして一躍評論界の寵兒たらしめた。華美優麗の文章に、獨斷的思想をのせ、之に最新科學の衣を着せた彼の表現法は、時好に投じ、宗教的信念に渴望せる英國の篤信者連をして

a new gospel の如く歡迎せしめた。然しながら、一般讀書界を動搖せしめたる此の驚異的發表も、虚飾的の字句の排列や、獨斷的推論や、又は半可通の科學的智識を振廻す事を、極度に嫌惡する純粹科學者からは、不幸にも、蔑視にあらざるば黙殺の處遇を蒙つた。

併し、Kidd のこの著書の上に加へられたる兩極端の批評は彼の著書全體を冷靜に考察する時に於て、共に過誤に陥つて居るに云ふ事が發見せられる。更に彼の "The Social Evolution" を公平に検討すれば、其の中に、社會學上最も意義深き多くの難問題を提起し、是によつて社會學者の注意を最も強く喚起した事は疑ひない所である。只其の中に、提起されたる重要問題に對する彼の斷定が、其の半ばのみ正當で、他の半ばは全然見當が違つて居る點が遺憾にたわぬ。併し、其の正しき斷定の部分は、社會學的智識に對して、眞實にして重要な學的貢獻を以て目する事が出来る。彼が提出したる、問題を出来るだけ要約すれば、略々次の様なものである。

『由來自然淘汰は、少數者を救ひ、多數者を殺す極めて非人道的法則である。此の法則の結果が、斯の如く明白であるにかゝはらず、

何故に人類の最大多數は、此の法則の内容たる競争 (Competition) を排除し、其の結果として示現する呪ふべき生物學的「進歩」を、阻止すべく努力しないであらうか。』此の疑問は KIDD が彼の「社會進化論」中に提起した問題の中で、社會科學者が最も慎重に考量を拂ひ且つ適正なる解決を學へなければならぬものである。斯の如き問題の提起は、社會主義 (socialism) を信奉する人々より好んでなされる所ではあるが、Kidd が執つた此の問題に對する態度は、社會主義者のそれよりも、より以上大膽にして且勇敢なるものであつた。しかのみならず、彼が此の問題に與へたる解答は、社會主義のそれと比較し、更に深刻且つ獨斷的なものであつた。

『進歩は合理的裁可を有しない。それは寧ろ非合理的である。理性の見地より見れば、妄誕である。人類は増殖し、競争し、争闘し、而して進歩を續けて行く。何となれば、人類は本質的に非合理的である許りでなく、合理的ならむとする希望さへも有しないからである。彼等は理性よりも寧ろ信仰に依つて生活を續けて居る者である。彼等は、民族を改良する目的の爲めに、其の情念を抑制し、彼等自身を殺す事さへも敢てして居る。そは、彼等が科學的である爲めでなく、彼等が宗教的であるからである。』

["Progress has no rational sanction. It is irrational and, from the standpoint of reason, absurd. Man goes on multiplying, fighting and making progress because he is not rational and has no desire to be. He lives not by reason, but by faith. He crucifies and kills himself to improve the race, not because he is scientific but because he is religious."]

憶ふに、神學者の群が、Kidd の議論及主張を殆ど熱狂的に歡迎し、彼の此の著書を新しき聖典の如く權威化して、讚美したるに反し、同時代の科學者の群が、同じ著書を、皮相獨斷の見解なりとして、極度に處遇排斥したる眞原因は、彼の議論中の隨所に發見せらるゝ處の此の種の著しき矛盾撞着にあつたであらう。實際彼の著書を繙いた讀者にして、全巻を通じて見出される彼獨自の力強き斷定句、又は彼が好んで濫用する最高度の形容詞句に幻惑せられる事がなければ、何人か雖も彼の議論が餘りに矛盾撞着に豊富である事に喫驚するであらう。忌憚なく言へば、この著書は、純正科學の一勞作として學的存在權を有するに云ふよりも、寧ろ熱烈なる特種の信仰若くは教理の普及を目的とせる一宣傳書として分類される方がより正確に其の本質を道破したるものであるかも知れない。然しながら、上述の如き印象偏見に囚はれる事なく、冷靜に彼の議論の偽はらざる價值批判を試みる寛容心があれば、注意深き社會現象の學徒は、奇矯に似たる彼の主張の中に、尙ほ捨てがたき學的貢獻の存在するのを看過しないであらう。單純に表面から觀察すれば、彼の社會進化論は、明かなる獨斷的錯誤であるが、其の錯誤の裏面には一脈の眞理が流動して居る。

彼の主張の錯誤の部分は、次の如き問題の取扱方法で最も便利に證明する事が出来るであらう。生存競争に於て、早晚死滅の運命を課せられる個人若くは家族は、其の生存若くは存続中に、早くも自己の死滅的運命を知覺

認識しつゝ、尙ほ争闘を續ける。Kidd は斷定して居る。然しながら此の斷定は、少しく省察を深くすれば其の錯誤なる事が見出される。假りに此處に暢發繁榮せる百組の家族が存在せるものと想像する。彼等の中九十組は十代の間に消滅し、而して其の消滅したる彼等の位置は最後まで残存せる十組から、派出分岐した新しき家族の同一數に依つて満たされる。若し此の假定が實際現象の寫像なりとすれば、是は非常に急速度の自然淘汰であらねばならぬ。然しながら、假りに此の自然淘汰率を正確に維持する現象が存在したと想像しても、一代に新陳代謝の運命を甘受す可き家族數は、僅かに全體の十分の一、即ち十家族に過ぎない。

斯く觀察すれば、『或與へられた時に於ける』百家族中の九割、即ち其の時生存せる大多數の人類は、一代の後死滅の運命を課せられて居る。云ふ様な豫覺を持ち得ない理屈である。却つて彼等は自己の民族の永生を信じて居る位である。故に、『或與へられた時に於ける』人類の大多數は、其民族の運命が近き將來に於て、死滅の危難に逢遭せねばならぬ。云ふ事などは信じ得ない。彼等は、却つて最後まで残存の榮冠を戴き得る。云ふ事を確信して居る。

併し、彼が提出したる問題を、上述の如き方法で取扱ふ時に、吾人は其の中に、特別に興味多き反面の一眞理が、同じく潜在躍動せる事を看過する事が出来ない。この一眞理に正面せしむ可く學徒を刺戟した點に於て、社會學上に於ける Kidd の功績は何人も承認してやらねばならない。其の反面の眞理は次

の如きものである。如何なる家族又は如何なる民族に雖も、未だ暢發繁榮を繼續しつゝある間は、近き將來に於て、其の民族的死滅の悲運が、彼等に到來する。云ふ事が如き悲觀的豫覺を所有し得ない。云ふ事は、疑問の餘地の無い事實である。併しながら、榮枯盛衰の理法は、宇宙の普遍的法則なるが故に、彼等の民族的運命が、永遠に幸福を以て満たされ、彼等の子孫が永遠に残存する特恵者である。云ふ事も、又何人にも信じ得ない處である。即ち、彼等は『或與へられた時に於ては』我が民族だけは、生存争闘場裡に於ける優勝殘存者たる資格を有するものと其の自覺を持つ事は出来る。永遠に云ふ立場から彼等の運命歸趣を觀察すれば、總ての家族、總ての個人、又は總ての民族は、普遍絶對的に死滅の同じ運命を負つて居る。信ぜざるを得ない。此の結果として彼等の生存争闘は本能的なるのである。而して殘存者たらんことを彼等の痛ましき努力は、智識若くは理性の働きの如きに依つて合理的に指導せらるゝよりも、却つて或部分は、Kidd が提唱せる如く、信仰若くは信念(Belief)に依つて支配せらるゝに到るのである。短言すれば、彼等は衝動的に前進する。而して、彼等は將來の好運を信じ、自己及其の民族の永續せん事を本能的に希求する。

之故に或民族、或家族若くは或個人をして、生存に對する痛ましき努力を續けしむる推進的動力(The onward drive)は、反合理的(anti-rational)でもなければ、又超合理的(super-rational)でもない。それは、寧ろ、副合理的(sub-rational)若くは proto-rational (此の新

熟語の意味を、最も適切に表現する日本語を、今此處に見出し得ない。強ひて原語の意味に近き日本語の熟語を新造すれば、理性前(ミでも云ふ可きか。體驗派の哲學者達が、純粹經驗の境地を「哲學前」名付けつゝあるの嗜好をなすであらう)である。それは、理性よりもより深刻に、且つより原始的のものである。それは、生存の可能性に對する信仰(Faith in the possibilities of life)に依つて支へられた存續意志である。だから、Kidd が提起した質問の形式を、次の如く書き改めたならば、彼の著書の綜合的趣旨にも適合し、且つ社會哲學上最も意義深き質問の趣きをも呈するに到るであらう。

吾人が所有する躍進的意志 (ongoing wish) は、人類が普遍的に靈魂 (the soul) を命名せるものと同一視する事が出来るだらうか。又此の躍進的意志若くは靈魂から、人類進化の總ての階段に於て、人類の最高興味を咬つた宗教的社會現象、即ち生の可能性に對する人類の根本的信念が、湧出するものと見て好いものであらうか。若しも吾人が、人類が包蔵するこの普遍的宗教信念の成立根本動機を赤裸々に探求檢索し、傳説等に囚はれない新らしい宗教原理の發見を希求するならば、宗教信念は神に對する又は或超自然に對する人類の信仰を其の動因とせずして、却つて、靈魂即ち前に述べた生き永らへん欲念する人類の生存意志を支持し、且つ強化せんとする努力の表徴に外ならずと斷定するに到るのであらう。即ち此の生存可能性に對する吾人の信念は、人類が無限の過去を通じて生存争闘を續け、其の優勝殘存者となりたる者が、無意

識且つ自然的に産み出したもので、之に今日普通宗教心の樞核と目されて居る靈、若くは神に對する第二次的信仰が包含せられ、遂に兩者を統一したる一般宗教心となつたのである。

此の原始的根信念は、假令、進歩せる科學が、未だ神祕傳説を以て充たされて居る古神學的宗教論を徹塵に粉碎する日が到來しても、尙ほ依然として人類が存續する限り、永遠に潜在するであらう。斯く觀じれば Kidd が提出したる命題、即ち宗教信念 (religious faith) は理性よりも、より深く且つより原始的なるもので、社會進化に於ける主要なる一要素であるとした點は、人類社會學に於ける一つの積極的貢獻である。是認する事が出来るであらう。

八

前節に於て、Benjamin Kidd の社會進化理論を檢討した際、彼に依つて提起せられた問題の様式が、著しく社會主義のそれに類似して居る事を特に指摘して置いた。今其の社會主義の理論を、社會進化の理論とを相關係せしめ、其の間の關係を考察する時に、吾人は、Darwin 流の社會進化理論に、多大の學的貢獻を寄與したる特異なる二個の學説を改めてここに紹介したいと思ふ。

William Hurrell Mallock は、社會主義に對するからぬ反感憎惡を有する英國の批評家で、一部の人士からは、彼の社會主義に對する論難が、餘りに辛辣にして且つ偏見に富むため、恰かも職業的社會主義撲滅宣傳者の如く解せられて居る。彼は千九百六年に米國各大學を巡遊し、社會主義に關する講演旅行を試み

たが、其の講演集は一年後に、A Critical Examination of Socialism (社會主義檢討)の題下に、出版せられた。彼の此の著書は、巷間には多少の反響はあつたが、社會科學の立場から批評すれば、不幸にも社會現象の有能な學徒としての、彼の名譽を高めるものではなかつた。即ち、社會主義批評に關する彼のこの學的試みは、畢竟失敗に見做されねばならなかつた。

併しながら此の著書のみを以て、Malkoockの社會問題に對する學徒としての全價値を確定するのは彼に對して稍々氣の毒の感がある。彼の社會學說を正當に理解し、彼の全價値を公平に批判せんと欲するならば、先づ千八百九十八年に出版せられた彼の Aristocracy and Evolution (貴族主義と進化)を研究する必要がある。此の著書は社會學者に尠からぬ暗示を與へた眞に重要な社會學的力作である。此の著書に於ては、彼は其の惡癖たる虚飾華麗なる字句的遊戯を止め、動もすれば陥り易き偏見を超越し、事實の真相に徹底せんことをみた跡が見ゆる。特に、此の著書に於ける彼の中樞概念である『社會功業の要素としての個人的能力』の現象を論述したる點は、眞に敬意を以て迎へられるに價するものである。

彼は、單純なる人類の生存争闘、支配に對する争闘 (a struggle for domination) を區別し、正しい意味に於ける進歩 (progress) は、獨り後者のみ能くする處であるを主張した。此の兩者間の區別は、實際社會の歴史的解釋の目的に對して、極めて意義深きものである。此の點を充分に諒解しなければ、何人も、重要な社會學的問題の研究に這入つ

て行く事が出来ない。併しながら、過ぎた事は尙ほ及ばざるに如かずで、支配に對する人類の争闘が、社會進歩に對して重要な貢獻をなす事を極力主張せる點は、Malkoockの卓見であるが、彼の如く、此の原理を勝手に悪用して、『民主主義 (Democracy) なるものは、必然的に進歩を阻害する敵である』と云ふ奇矯大膽なる結論を下す事は考へものである。彼は、此の著書の三百七十九頁に左の如く述べて居る。

『人類の民族としての進歩は、最も強き人力及最も高き人類の能力が、それを指導する爲に、又指導する時に於て、初めて達せられる。斯の如き力又は能力は、特に優越せる少數の人々のみ所有され、又獨占せられて居る。之等の人々は、大多數の人々が少數者の支配に委するに云ふ條件の下に於てのみ、大多數を進歩せしむる事が出来る。』

九

社會進化論の中樞概念として、"personal ability" の權威を極度に高唱し、從來動もすれば、多數人の意思なる美名に隠れて、この個性的要素を輕視若くは壓迫せんとした、社會主義理論を、之に依つて微塵に粉碎せんことを奮り立つた Mallock の論鋒は、多少社會主義哲學の理解に乏しい恨みはあつても尙ほ社會學上の一貢獻たるを失はない。されど、若しも今日生存しつゝ、あつたならば、この反社會主義的議論の要旨を、最も我意を得たりと、衷心から賛成裏書したる社會科學者の隨一は、恐らく、Francis Galton (1822-1911)であつたであらう。彼は Charles Darwin の

甥である。而して、主として、遺傳學上の一大文献なりと周く認識されつゝ、ある大著 Hereditary Genius の著者及近世優種學 (the modern science of eugenics) の創設者として廣く科學者間に知られて居る。遺傳と天才との相關に對する研究に於ては、彼は實に其の第一人者である。彼以前に、彼の如く統計學數學、其他の實驗的方法を用ひて、純然たる歸納的基礎の上に、優種學的原理を確立せんことを努力した精進な學徒はない。

Galton が初めて開拓の鋤を入れたこの新科學の處女地に於ては、彼の衣鉢を承けた秘藏弟子たる Karl Pearson (1857-)程、價値多き研究を續けた學徒は他にあるまい。これと同時に、彼の如く勇敢に、『優越 (superiority) は社會進歩の不可缺要素である』と云ふ事、個人的優越は遺傳的事實である』と云ふ結論を無條件に承認した學徒は又他にあるまい。併

雜

加藤恒忠氏と語る

會て或は各國大公使として、遠く祖國の外に外交官としての名譽を走せ、或は大坂新報社長として操觚界に活躍し、或は北濱銀行重役として財界に雄飛するに多年、現に貴族院議員、松山市長の重職に在る加藤恒忠氏と親しく語り得る機會を持つたのは、去る八月五日校友會地方支部歴訪のために企てられた九州、中國方面への旅行の最初の夜、汽船紫丸の甲板の上であつた。

望月が高く中天に冴々、晴れ切つた大空に

錄

群星が鈍く輝いて、飽くまで靜な内海の夜はもはや半ばを過ぐる程に更けてゐた。宵の間は流石に賑はつた甲板上にも漸く人影がまばらにしか見出し得ない頃であつた。船舷に近く持ち出された藤椅子に身をもたせて氏は、『何か御感想を承り度い』との私の請を容れて徐ろに語られた。

「時勢は既に變つてゐる。自分達のやうな老人が物言ふ時代は既に去つてしまつたのだ。そして貴方方のやうな新人の意見を我々が傾聴しなければならぬ……」この謙遜な言

葉に私はさう答へてよいかに迷つた。そして新人の名を以て呼ばれた自分自身を省みて、特に氏に對してのみでなく、何だか誰かしらに申譯ないやうな感に打たれずには居られなかつた。

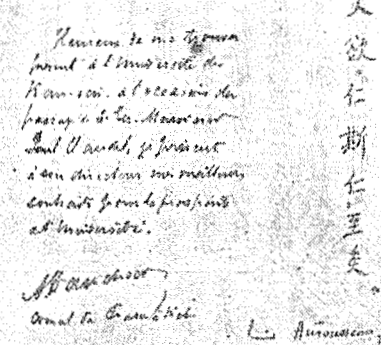
政治家である氏は、又教育家でもある。私立北嶺中學校は現校長加藤彰廉氏と共に、育英事業に於ける氏の盡力の一表現である。こゝを氏の語られる所によつて私は知るこゝが出来た。又近く松山市に私立高等商業學校が、矢張り氏等の計畫

の下に設立される筈ださういふやうなこゝも語られた様に記憶する。

最後に氏は在阪何年間かに於ける感想を語られた。

私が多年に涉る海外生活から歸つて來て初めて大阪へ來たのは十數年前である。當時私の眼

に映じた在阪各方面の人物は、何れも實に立派な人達ばかりであるのに私はいたく驚いた。そして喜んだ。官界、法曹界、實業界、ぎの方面を見ても、確かに第一流さういふに十分なほどの人物が網羅されてゐる。私には思はれた。併しさうしたこゝかこの感じはさう永くは續かなかつた。數ヶ月もするに、私のこの人達を見る目が前よりは全く正反對になつて來たこゝに氣がついた。



「實に愚劣な人間許りがよく斯うも集つたものだ。何處を見ても目に立つ程の人間は一人だつて居はしない。」之が眞に人物の豊富なのに驚いた。その同じ私が數ヶ月後に感じた所であつた。

併し又、この感じも矢張りさう永くは續かなかつた。更に數ヶ月するに、私の大阪に於ける人物を見る眼が變つて來た。

「大阪さういふ所には非常に豪い人は居ないやうだ。さう云つて、愚劣な人間も見當らない。大して豪くもなく、又大して馬鹿でもない人間ばかりが、即ち平凡人ばかりが相當の地位を占めてゐるのだ。」

この最後の觀方が最も永く續いた。そして次のやうな斷定を自分で下してゐる。即ち「大阪さういふ所では、否な大阪に限らず何處でも、非常に勝れた何かを持つてゐる人間は、非常に馬鹿な人間と同じやうに、社會人さしては成功出來ないのだ」

言ひ換へるに「社會的に相當の地位を占めるこゝの出來る者は何時の世にも、又何處の世界でも、寧ろ皆平々凡々な人間だ」と。

書せ寄念記事領國佛及授教オ

り冷切つてゐた。甲板には殆ど他に人の影は見えなかつた。氏も私も船室に這入つた。

附記

當時氏は咽喉を患はれて殆ど絶食の日がもう幾日も續いてゐるこゝであつたが、私は特に氏の御健康を祈つて已まない。(經世)

鴻鳴會總會の記

夕涼み賑ふ頃橋上の人波を押分けて或橋畔パウリスタへ參集に及んだ。試験最中さ雖も歸りに日參を怠るこゝの晩は寢就かれなかつたこゝはさ左様に我我にこつて馴染み深い家である。そゝるやうなコーヒの香が懐しい。

今春卒業してから初めての會合だ、定めし面々が例の調子でガヤ／＼と遅い連中を罵つてゐるこゝだらうと思ふ。階段を一つ飛位に昇るのはまごころこしい。兎に角無意識に會場なる二階の別室へ踊り込んだ。

こゝろが何うだ！相も變らぬ忠實なる我が矢野幹事殿が君子叔谷賢兄と相對して只二人時局を忿ふる總理大臣よろしくの體、テーブルは純白の裝ひして徒らに饜運を待兼ね顔だ。此處に於てか我輩等時間の觀念無き非文明人否多忙なる紳士諸君をこき下ろすこゝ久し矣。

第一疾く來ておなければならぬ準備委員、長久保君の顔すら見えない。或はその氣のあつた細君が玉の如き愛兒を擧げて上を下への騒動をやつてゐるのではあるまいか。善意の解釋やら心配やらをしてみろ。この時「やあの懸聲諸共關入したのは音に聞ゆる野次の守糸島君、早速連懷(こゝして曰く「細君が見事な令嬢を製造して歸國中さうも不便でね」)と長久保君もこの時顔を見せて「一寸用事でね」とす

ましたもの。然しまあ目出度い。若き親父が出來、親父心得が出来る。僅かの間に變つたものだ。親父さ云へばこんな日には必ず罷り出る巽鐵君は細君が肥立悪くて親父になり損れた由實に氣の毒で哀悼の情に堪へない。

だん／＼頭數が増へて來た。暫くは久瀧を叙するに忙しい。

プレジデント楠原君は今度商業學校を經營する筈で開校の運びも遠くないと云ふと、自稱何々學の泰斗我も／＼と先生を志願して擡げた大風呂敷は忽ち満員となる。上田君は柄に無くつゝまじやかに控へて御機嫌を奉仕すれば只ニヤ／＼とするのみ、さては何か良い事でもあるものか？時に中村峯君近況を報告して曰く「僕は此節めつきり大人らしくなつたよ」と、御本人の證明なれば萬々間違ひは無かるべし。偉大なる労働家横井君はこの程家の新築が出來た由、當然の順序として結婚問題は満場一致を以て原案可決。その間我輩に日頃の皮肉を督促する御仁もあつたが、これでも卒業すれば紳士ですだから。

斯くて十數人、會員は殆んど全部車に就いた。かうなれば皆んな大人しいものさ。口の運動が具體的になつた故にや。この時校友にして關大豫科生なる勤勉家我が中村良君のみは羽折つた制服を脱げば下は納戸色の目も覺めるやうなルバシカ、獸々の内に無言の氣焔を吐く。一同目を見張つて感嘆するこゝに暫し、但しフォークとミョップの運動は休止することなし。やがてメートルが揚つてからの模様は愉快なるこゝ限り無し。但し後日微觀執行の時期迄報告留保のこゝ。斯くて十時過ぎ盛會裡に解散した。

當日不參者三島君は山陰地方へ講演旅行中にて第一公式の風呂敷を目下盛んに擡げてゐるらしい。また八木君は所用有之滿蒙地方へ出張。旅寢の或夜は重役の夢でも結んでゐるだらう。(山口生記)

擴張後援會報

本學擴張後援會寄附金
申込者芳名 (申順込)

金貳萬圓	內田信也殿	金貳千圓	賀來俊一殿	金貳百圓	林蝶子殿	金貳百圓	服部嘉香殿
金參千圓	高倉作太郎殿	金貳萬圓	堀外喜男殿	金貳拾圓	中田英太郎殿	金貳拾圓	服部辰野殿
金壹萬圓	宇治川電氣株式會社殿	金貳千圓	大阪鐵工所殿	金壹百五十拾圓	尾形兵太郎殿	金五拾圓	池尾八重子殿
金壹萬圓	範多竜太郎殿	金參百圓	淺井義周殿	金貳百圓	多賀谷庸三殿	金貳百圓	野村吉藏殿
金參千圓	井上虎治殿	金參百圓	阿部萬平殿	金貳百圓	磯部助一殿	金貳百圓	木下孫一殿
金參千圓	矢野慶太郎殿	金參百圓	石崎震一殿	金貳百圓	澁谷千里殿	金貳百圓	首藤守彦殿
金參千圓	加島安治郎殿	金參百圓	岡田永太郎殿	金貳百圓	管子義朝殿	金貳百圓	首藤敏子殿
金貳千圓	白杵善三郎殿	金參百圓	島村幡彦殿	金貳百圓	牧富賢三殿	金貳百圓	木村教俊殿
金貳千圓	齋藤藤四郎殿	金參百圓	山内恕殿	金貳百圓	宮富賢三殿	金壹百圓	小林一九郎殿
金貳千圓	村田省藏殿	金參百圓	中根經三殿	金貳百圓	公莊惟篤殿	金參百圓	小泉幸治殿
金貳千圓	太田丙子郎殿	金參百圓	玉手弘行殿	金貳百圓	龜井寅太郎殿	金參百圓	小泉コマキ殿
金貳千圓	下村耕次郎殿	金參百圓	增田正雄殿	金貳百圓	丑島光子殿	金壹百圓	田川七郎殿
金貳千圓	池尾芳藏殿	金參百圓	泉彌市殿	金貳百圓	竹原友三郎殿	金壹百圓	木戸卯之助殿
金貳千圓	木村清殿	金參百圓	橘尙藏殿	金貳百圓	野村治一良殿	金壹百圓	谷岡登殿
金貳千圓	加福力太郎殿	金參百圓	阿部嘉八殿	金貳百圓	大島延太郎殿	金壹百圓	小倉重太郎殿
金貳千圓	香月銳之助殿	金參百圓	山岡倭殿	金貳百圓	市川誠次殿	金參百圓	渾大防芳造殿
金壹千圓	大阪毎日新聞社殿	金參百圓	寺井八三郎殿	金貳百圓	野口遵殿	金參百圓	樋口純殿
金壹千圓	濱地藤太郎殿	金參百圓	澤村勇治郎殿	金貳百圓	高橋武造殿	金拾圓	土持邑治殿
金壹千圓	多羅尾源三郎殿	金參百圓	市村富久殿	金貳百圓	中野重太郎殿	金壹百圓	桂忠雄殿
金壹千圓	八木與三郎殿	金參百圓	井野清次郎殿	金貳百圓	落合道之助殿	金壹百圓	(以下次號)
金參千圓	安宅彌吉殿	金參百圓	武藤山治殿	金壹百五十拾圓	藤井常世殿	金壹百圓	
金參百圓	前野芳藏殿	金參百圓	中村榮造殿	金壹百圓	服部勝吉殿	金壹百圓	
金參百圓	南喜三郎殿	金參百圓	田附政次郎殿	金壹百圓	原田六郎殿	金壹百圓	
金貳百圓	堀田宗一殿	金參百圓	故中川淺之助氏追悼會殿	金壹百圓	山岡以知子殿	金壹百圓	
金壹百五十拾圓	小田切延壽殿	金參百圓	鹿子木彦三郎殿	金壹百圓	宮島綱男殿	金壹百圓	
金壹百圓	八田兵次郎殿	金參百圓	貴志喜四郎殿	金壹百圓	岸田幸雄殿	金壹百圓	
金參百圓	本山彦一殿	金參百圓	國府一房殿	金壹百圓	岸田島子殿	金壹百圓	
金貳百圓	中島政藏殿	金參百圓	田中市藏殿	金壹百圓	山岡千賀子殿	金壹百圓	
		金參百圓	千浦友七郎殿	金壹百圓	新井榮吉殿	金壹百圓	
		金參百圓	江村義三郎殿	金壹百圓	水谷揆一殿	金壹百圓	
		金參百圓	鈴木三郎殿	金壹百圓	水谷清子殿	金壹百圓	
		金參百圓	加福サ々子殿	金壹百圓	長谷爲五郎殿	金壹百圓	

金貳百圓	服部嘉香殿	金貳百圓	服部辰野殿	金貳百圓	三井水忠殿	金貳百圓	池尾八重子殿	金貳百圓	野村吉藏殿	金貳百圓	木下孫一殿	金貳百圓	首藤守彦殿	金貳百圓	首藤敏子殿	金貳百圓	木村教俊殿	金貳百圓	小林一九郎殿	金貳百圓	小泉幸治殿	金貳百圓	小泉コマキ殿	金貳百圓	田川七郎殿	金貳百圓	木戸卯之助殿	金貳百圓	谷岡登殿	金貳百圓	小倉重太郎殿	金貳百圓	渾大防芳造殿	金貳百圓	樋口純殿	金貳百圓	土持邑治殿	金貳百圓	桂忠雄殿
------	-------	------	-------	------	-------	------	--------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	--------	------	-------	------	--------	------	-------	------	--------	------	------	------	--------	------	--------	------	------	------	-------	------	------

大正十一年九月十二日印刷
 大正十一年九月十五日發行

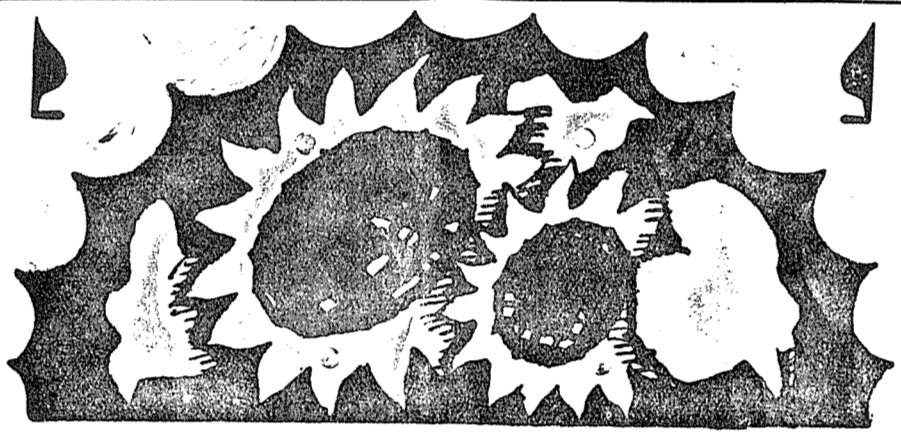
大阪市北區上福島北二丁目
 關西大學學報局

編輯兼發行人 辰己經世

印刷者 飯田彌之助
 大阪市西區土佐堀通四丁目五番地

印刷所 鐵三有社
 大阪市西區土佐堀通四丁目五番地

發行所 關西大學學報局
 大阪市北區上福島北二丁目



新涼 店內に入る

秋風が立ちました、三越の店内にも新涼満ち渡りて、凡ゆる秋の御用品が豊富に出揃ひました。秋の御用意は是非三越へ——

天文に関する展覧會 九月一日より……
屋上會堂及び西館七階にて

天球の大模型、太陽系總模型から傳説「天の川」の牽牛織姫の端麗な面影、さては興味ある天界旅行等科學と趣味から天體の一斑を展開し、尙種々貴重な參考品を陳列し、且餘興には天文に関する活動寫眞を映寫いたします。

九月の定休日 十一日(月)・二十五日(月)

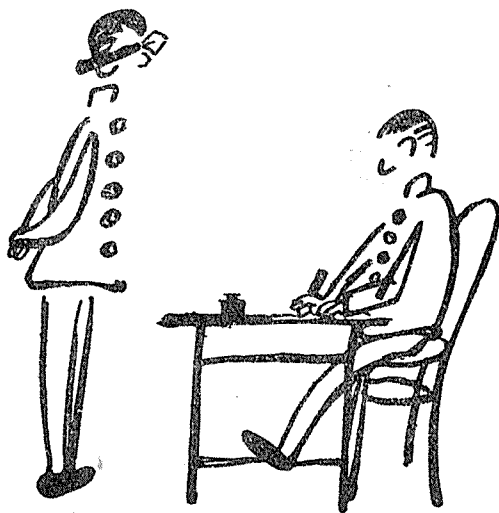
大 阪



三越呉服店

諸友のポケットに
ありて最も便利と
最も愉快とも分福す
る.....

カーター



キングインキ
万年石盤
万年黒板

カーター万年筆株式会社

大阪市南区高津一丁目二六

印メバツ

レ

ニ

コ

ツ

ロ

ト

ド

リ



るるさ作製に手の人外

とドーコレ

てふ争を覇其

の譽名

を勝全

るせな

純

品産國

ニットレコードの専賣並に

最進歩したる諸種の

蓄音器を販賣せる

小賣店は

南區戎橋南詰

我屋蓄音器店

電話南五四二番